特別
チ12
3643
26

囃謡目録

一 高砂
二 難波
三 志賀
四 弓八幡
五 老松
六 白楽天
七 景服
八 白髭
九 和布刈
十 氷室
十一 竹生島
十二 江島
十三 大社
十四 東北
十五 芭蕉
十六 江口
十七 千手
十八 采女
十九 楊貴妃
二十 二人静

故梅若誠太郎氏
昭和四年十月廿日
梅若重戸氏
寄贈

九一 班女
九三 紅葉狩
九五 定家
九七 夕顔
九九 半蔀
九一 杜若
九三 羽衣
九五 誓願寺
九七 遊行柳
九九 松風
四一 芦苅
四三 舟辨慶
四五 鄧宮
四六 井筒
四八 佛原
三十 小塩
四二 雲林院
四四 六浦
四六 西行櫻
四八 湯谷
四十 雲雀山
四十二 盛久

四十三 安宅
四十五 小督
四十七 浮舟
四十九 源氏供養
五十一 柏崎
五十三 三井寺
五十五 富士太鼓
五十七 唐船
五十九 二人輪
六十一 龍田
六十三 花月
四十四 錦木
四十六 松虫
四十八 玉葛
五十 櫻川
五十二 百萬
五十四 天鼓
五十六 梅枝
五十八 邯鄲
六十 卷絹
六十二 自然居士
六十四 東岸居士

六十五 放下僧　六十六 山姥
六十七 當麻　六十八 養老
六十九 海士　七十 融
七十一 加茂　七十二 嵐山
七十三 猩々　七十四 春栄
七十五 春日竜神

已上七十五番

高砂

（サシ）然れども此松はその氣色とこしなへにして花葉時をわかず四つの時の至りても一千年の色雪の中に深く又ハ松花の色十かへりとも云へりかかるたよりを松が枝の言の葉草の露の玉心をみがく種となりて生きとし生ける物毎に敷島の陰によるとかや然るに長能が言葉にも有情非情のその聲みな歌にもるる事なし草木土砂風聲水音まで万物のこもる心あり春の林の東風に動き秋の虫の北露に鳴く

皆和奇妙なる神まもれい
萬木よ陽もてくれ八乙乃まもれい千
秋の緑となりてくれ古今れもとらん
姫皇乃治爵よあつる紅の木あの
らて美岡みもを今朝みし万民これを
貴敬す高御の尾上れかれのお
ともとりり暁ひきく霜をきもし
松ヶ枝の紫をハ同深みとり立よ
る海乃朝夕よりけを落葉の重せ
ぬを。祝なり松乃もの敬う皆すて
色ハ松西木乃ろくもりき世のだと
ゆをり世ろ世きハ木れ甲ろ名ろ
高御の世代乃たりも相せの松て

めて。たき立ニキ化言ろをえる松ヶ枝の
ゆく花木の昔あらりく其名を
名所行へや今を行とつ山き
見を高砂住乃江の相せれ松の精を
帰と現て来ていう石見後やはい
名前乃松の幸物と引りて第木
こころのきれもし賢き代やく
ちも木を我大君乃岡あれハ乃
きを美乃代よ行をあつ行くあ
きにく福ナ乃世とあるこの江の
海土ハ水ハ名ハ名ハ名ハ名ハ
ちきつく沖乃方よいくまきりやく
高砂や浜の松毎よ帆をあきてゆく

月諸ともよ山堀の波乃浅路の鳴瀬
やどをかるたのの沖もくまもや住の江
あぶのまくり〳〵
しらぬ世住吉れ岸の姫松いく世へぬ
うんむつまと君をもくもやうつき
乃久しきよる乃神うらぶるの敷れ
柏ゐと掃〳〵てもくめ行へ宮つこそも
西乃海あをきう原の波まより
神れ思ふまやゆの高れ
明のうら
たまも
れ根よりく隠とまれい千年ぞ
緑子あうそう
梅花を折〳〵
あさきゝ二月の高砂乃松乃

古籠の陰うやく月傾くの祇
遊び法教をあさあくらよ
あくの華姫の老を波れ住の江
思れの書海波ゆ先
沙弥神とゆの道をくよ都のまよ
ゆくくはそれ還城楽のまひ地方
鼠乃小品夜日少住ゆいあるる恋慶
をくしいさ母くるまあ壽復とくき
ゆ秋ゆは民をなくく萬歳楽ゆ今と
のふ月せ乃れ乃明朝くの聲うだのせ
〳〵

籠波

むく唐国乃堯帝の治代ゆもこえ乃

万機乃まつりことをやうまもる
荒悪の浪は海よ靡くださるまく
いろあるも 君くそれは波をまく水よ
多れとぞうふくやうやく高さ屋よのほ
とてみまい煙くう 西のかまとをぞおき
そひまきりと歳高よかきまくも吹て
きふくうつえきを郷まは地君の代く
ふたりをひくるもろ新さみと
のう国くまあるねく三年れは朝ゆる
ひまて豊年月を穂まれ浜乃まゆ
君枝つをうく富は豊年れ歩調物ゆる
をねるやおうくいや向ゆよをふ山寶の
千秋萬歳のちはこれ西をたくまれ

紀まは書きは四乃ぱくうこ深みて
ぱ鴎の外まて海をひろき歩ゐこ
無波山君法をうこきき歩数は大君
君国のまはをを木し栄へさうふ津の
国乃新波の梅れうれ杉ひし宮方
ふ書く一新をうふれは万皆なれ
や萬代乃杉五人をうめてたきに
万世の君れ記ぶく栄へ久しきるは
は乃昔語りうを面白き 天ゐのあふ
新波津よ島乃一色切りとよ鴬乃春
君曲春宮鶯ををうきん 君和や当方
誰ゐれはぶく四有花のきく年楽と
をり新ふき 我はをうきや地梅乃

[illegible]年くの花は精と一人の老人は今を
[illegible]を能登津水[illegible]日[illegible]咲や世花と詠て作く
[illegible]を[illegible]めやうて百海國の主になるやうに
[illegible]と世くれよ鄙まを[illegible]ぬり乃色をて去
乃當乃華の曲よりかりの感めやへや
[illegible]て海路へ花のもつよ物語へ
[illegible]雅の[illegible]月の名は東より来ると
[illegible]能登乃海の
[illegible]月高もまを山浦の
[illegible]白や[illegible]
[illegible]は能登乃浦より年をつくびく
[illegible]乃恵みを受ぶ世花咲や能の神
[illegible]我はまく百海國より世國より

なり君をたのめ國を[illegible]世とい[illegible]
相人なり[illegible]仁德乃御宇より[illegible]代
乃鏡の影をうつ[illegible]治まるこよの榮花
をもつもを世花の匂ひ[illegible]
[illegible]の[illegible]乃みとを能登の車の流るぬ
遊び戯まを色くれ年楽だもろや
梅枝よぎ折る當を[illegible]あけとも
高ハぶるき能乃[illegible]
ぐ人もかれい[illegible]代より[illegible]敬も
時寺乃ねより[illegible]山るる能登乃鏡も
鄉き浦をうしほ乃浦乃ろく
八江を折れ村あ乃紫をと[illegible]をと
[illegible]乃[illegible]こ[illegible]能登

鳥もさへづる御代なりけりや
荒たへ乃音楽や時乃調子に叶ひ、
つゝ春鶯囀の楽をば春風と
ともに花をちらしつゝ　秋風楽
なれやまや秋乃風さそふ海をひく
しらうとうつ　万歳楽を　よろづうつ
青海波やるをあはれ　あるたるくらき
る採桑老　抜頭乃曲を吹くうつ　入日
を招き返す手みづく舞乃袖を返し
まてんだりとくはうらうかなりくはうらう此音楽
まひれ為く宮人は代よみち天下ときまり
におさまる天下と守りおさまる万歳楽ぞ
めでたき

志賀

然れば其時に至りて和歌の道は
盛りにて古へ今の詠歌を撰ばれし二道
六歌仙と名づけられて末の世までの
葛乃はひまろこり梢にかけし木の葉まで
露の色まそひゆく歌人乃心を花に咲かせと
かや　言の葉末乃人忘れぬぞまさ道の情
とかや　難波津　浅香山の姿ありし山の
井乃おもかげは雨の草乃露ゆき
霜雪なる色あれや藻塩乃芳けり松多
きその葉乃心の花の名高き郷成
や數々の道有る御代乃とてあそびぬれ
も三十一文字の神も守護し給ふまま

無見頂相の如来も感應あらたに給へば君も
安全に萬民時を楽しむや四因満乃雲
乃とまり四海八洲乃外迄も波の声も万歳の
響八乃ときはきる今よりつきぬ乃法
代ひさしき万乃ことの葉道直ならぬ
日乃本の國よ至り西北の風静かにて
ゆるぎ無き松乃ゆくや花も常盤乃
山松乃ちりかはずよろしき言の葉も光和哥の
詠よろしくや天地を動かし鬼神も感
をあはれと思ひやことわる山路のうく
家路いつかのまなかに淋しき心成べし
今は何をかつゝむ昔は大伴の黒
主といはれし身が代々経て志山乃神たる人

やさらん我も此山乃神となりかはりてや
梅は大伴黒主それは黒主の家乃名なれ
大伴の我は卑しく薪を負ひながらも
猶花の陰よ宿り休らひつゝまつ
かやうに名も云ふよ言づくれて志賀乃御
やかて時うつりそれにて山は山の山
急ぎまゐらんと蔭は古来乃花
思ひ出を深めて月の時乃調子
うつりゆく峯の山の社あらたなれ
くまなくはかくさも神とあらはれ
し花乃かゝきの志賀の山越しくも同
花その雲もまく志賀乃海も志賀
辛崎乃松風迄も春色の名残のどけ

[illegible]
年経ぬる身を老くらべ乃　それハ老ら
又老ハ志賀ゝ典　神の御ちかひ
[illegible]　みきあり
つる山乃ゆゝ　薪の斧れ永き日も
る和光乃あらくさよ　宮殿山　君ら
代ゝのときを老色や　ゝ乃花の鏡よ
ちらる高あらハゝ山　弥生しころせよ
立心して　ゝれ老ハ　ゝ神
楽乃　小忌乃　ゝ花ハこ
ゝの白和幣　松ハ立そ　青和
幣　ゝあ　ゝ
乃　過　ゝ

ちる花乃雲のハ神とを　ゝ
乃　ゝ
神　ゝ面白ゝ　ゝ

弓八幡

ちゝ神功皇后三韓を　ゝ
しゝ　ゝ神天皇　ゝ運
ゝ　ゝ
る天り下ゝ　ゝ
ゝ雲上乃月郷　ゝ
ゝ楽　ゝ
ゝを守り　ゝ
き故ゝ　ゝ飯州天皇乃御宮　ゝ
ゝ乃国　ゝ乃神　ゝ

麓より八幡宮とあがめ奉り雲を
もろ人まうで湯の山ぞ昔なる
時代とぞ人とぞ石清水八幡宮
霊社と祭り祈りうやまひて神功皇后
を異国退治の時たまひし九州四王寺を
眺めあひて七箇日の間神師ぞ
を今は久世の天の岩戸の神遊び
山ぶきの花の神楽のおとをよき
て持ちまきて神霊を
うつしまや神代の路にぞ道の
あまつひとあまの神楽や神のよろき来
とりたまはれ乃えるよ金の鈴を
つきてる早振神あそび七日七夜の山神

祭り地神も感恵乃うと
山ざくらまる時代よりこの国に来り給
ゆるぶ塔三所乃神祭りたり
きるゥ　ものや物を見るもの影るもゆく地教
更名の神祭り神恵あり明
月乃神楽を奏て君民祈ん
いのる祈ひと端離乃ゆき代より
ひとすき　我を祭り代を仰ぐ　今
地年ゆる世　いけ敬る川
高良乃神と称るかぜ時代を
人と呂ゆ宴に来りたるぶ塔大言
薩乃時神現りたふとてつき

[illegible]
神勅とゞく〳〵恵くあるべし
[illegible]山を宮樂乃ぬぐて異者[illegible]
[illegible]たるの[illegible]奇物ゐく〳〵
[illegible]ゐ[illegible]ゐ人乃國より神ゐ他の人よ
[illegible]し神人と物[illegible]しの[illegible]ゐ[illegible]
[illegible]乃月[illegible]ぬ百[illegible]代より[illegible]
[illegible]を君[illegible]叫[illegible]れ神[illegible]我
[illegible]き[illegible]乃神卯の神樂[illegible]
[illegible]や[illegible]神[illegible]日[illegible]
神乃[illegible]代[illegible]
[illegible]や[illegible]世[illegible]
[illegible]神の威[illegible]

[illegible]
[illegible]御影向[illegible]貴[illegible]君を
[illegible]
[illegible]に[illegible]乃神德天下一統と[illegible]
[illegible]代[illegible]箱の[illegible]
[illegible]山上に[illegible]神の[illegible]
[illegible]乃[illegible]月乃[illegible]
[illegible]物[illegible]
[illegible]
[illegible]神[illegible]
[illegible]ゆ[illegible]

先松

[illegible]社[illegible]の神と[illegible]
青山あり。晩月松[illegible]中ゆ映し南ゆ[illegible]

せきたる瓊門あり斜日行竿の色を
ますきり「たる」大伽藍の輪塔あり翠
帳紅閨の新しい黄とゝ[illegible]だよ古寺の舊
跡あり「晨鐘夕磬」の響たゝる事如
[illegible]ゝや四のきぶ[illegible]なりとゝきて[illegible]
浮世のゝゝとゝ[illegible]ゝ諸木の
中ゝ花梅桜ゝゝ天神の御自愛すて紅
梅殿し花も皆ゝ社と視て給ふ形
ゝゝ[illegible]ゝの木は我朝にもと漢家
の德を敬ひ唐の帝は時を四ゝ文
学ひ[illegible]ゝ花の色を愛し匂ひ常
より增りたる笑ゝ[illegible]ゝ匂ひ
「[illegible]」其色し深ゝ[illegible]ゝ文を[illegible]ゝ木

ありきゝとゝく梅とゝ[illegible]ゝ木とゝ[illegible]
きたれ梅花を大まと云事ゝ[illegible]の始
皇の御時の時天儀より吹き曇ゝ大雨
ゝきゝゝゝゝゝ帝面をもの[illegible]と
小松の浦より[illegible]儀より大木ゝ[illegible]
枝をたゝ[illegible]ゝ木の間すきまを
ぬきて真の雨をもゝ[illegible]ゝ帝たま
ゝゝ[illegible]を[illegible]ゝ花をたま
[illegible]ゝ[illegible]ゝ花の
ゝ世[illegible]の行末ひさしみゝきゝゝ[illegible]
ゝゝゝゝゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
宣もられゝ井の花も花ともゝゝ[illegible]
ゝゝゝゝゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

なるほどや　うれしきかなやいにしへは
よそに聞きし松梅も　梅花して風も嘯く
ところの時代の告げも給ふらん
めでたに紅梅殿と神の末人をば何やらん
慰め給ふつき　言ひめぐらすよ春も立ち
梅も色そひ　松もろともに　名も社老木ぞかし
若みどり　地「色もまさんとする神の心
奇ひよひ葉を重ね　地「ふる枝も傾ける
宮寺の声も満ちくる有難さや
げにも枝かはし　梢を分くの木の花も紅
是は老木の神松　是も老木の神松
の千代ふるや千世にかざられ石の上ほとゝな
つまで苔のむすまで　苔の生すまで

松竹つるかめの　齢をさづくる此君の
行末守れと我神託の　告を知らする
松風も梅も　久しき春こそめで
たけれ

白楽天

上歌
花に鳴く鶯水に住める蛙迄唐土は知
らず日本には歌を読候ふぞ翁も大和
歌をばかくのごとく読むなり　クセ　抑もか
ひとのみ歌をよみたる例は孝謙
天皇の御宇かとよ大和国高天寺
の住みける人の春のはじめに軒端の
梅に鶯の来りて鳴声を聞けば初陽
毎朝来不相還本栖と聞く文字に

写して見せとられ、三十一文字の徳をの
言葉ありきと和漢乃あた為ある
為れたのたくさん久方乃栖あるを
ぞえたる言乃葉乃色を始めてなり乃か
多数高額乃人よたくさんを者を
ぞあるたのくあるう海岸濱の生物
乃ねくみせとるつきるあ行きもらを
毒字りう立三千世乗や和国乃世俗ぞく
心りきる海士人の宮有絵を習ひられ
建和国のもて遊ひ和歌を言いく業
歌の曲其色こを題ん うもや方くの
遊ひくふきやくくを祖あん 誰か
名をくも出覚をよ我くよあくハ世年

楽の敵を浪の音角ハ龍の吟をる
色第八を地府の如乃うよた
つく貴海よ深ひつく海青楽をま
ゆ 芦原出 国を動く萬
代色よ山濱のうつるう水のまきく
海の 浪乃敵の海青楽西の海だ
をきら恩の波間より 形きゆ 住
吉乃神ぞくみよのかこすとよ出
あくまれしゆ 音乃 きみよの神
乃ちくれあくん程なぶも日本をハ
海へを紅りもくるう浦のあと
立項り紅へ楽天 きみよ 現て紅
へたりく 伊勢石清水賀茂の流ら麗

島三浦誠方勢田安藝の嚴鴻の明
神を樂渤羅龍王の第三の姫宮に
て海上ふり母とく海青樂をまち給へ
ば大龍王ハ姫ちゝ母乃曲をうゝ空
海上ひきつゞけ給ふ中衣の神風
神ひきよ吹をとゝ唐船ハ宮より
漢云小切りきり文乃紅や神とゝきこ
ゝあり明ゝや神と君乃仲乃うこゝぬは
うひきしきく

呉服

おゝ紅よ神功皇后ゝ韓とをうゝ給ひし
ゝ和國呉綿ハ道ひろくゝとの國まで
なりく世乃秋日の本ハ長國あるゝ代の
えハあ波給くゝ國史たゝゆくゝあり
東南雲治りて西ひよ風都なり
應神天皇乃時ゝ呉の國の勅使
世國より初ゝ紅ゝ給ひしよおやめいとあ
乃女帝をゝ人高皇の治波をもの玉朱
て西日數給ゝ呉ハ服乃皇よやす
らひまん日よりつゝ物のすきを
織ゝ後の時ゝ衣をまゝ勅使参賢
帝ハ歳國ゝふれゝうれよ
ゝ袁龍の時衣乃紋ハとあゝも
ゝ紅ゝとゝ色をゝつゝ氣ゝう
ゝ雲島ゝふゝをたゝ世あやゝとあ
ゝハゝこゝりきゝを紅ハ萬代ゝ絶

[illegible]と[illegible]定め有り[illegible]
服の文字をやりくきとれい袋あや
[illegible]とゞめ付き[illegible]
もとをあくあやの錦の唐衣ぬぎ
ぬ君ら袖ぬるまいたりとしく糸の
[illegible]代そめてたまきはる[illegible]
世君のゞくぬぐ[illegible]
[illegible]錦織織へいさくにしん
いく物の錦をもとく我君の出調よ織へ
[illegible]きのやうき乃ねくよ錦の色ハ
[illegible]山車出[illegible]しつつ乃時すきあつつきの色
を織織へ袋とつく[illegible]
[illegible]服しうあやくしん[illegible]

なるやあるりぬ[illegible]と物織へ織ぬかく
くもまちたぶへ[illegible]
さにらいぶく世松浦よ機織くぬ嘯
くにうの時秋の告をも物てしんく
[illegible]代そあ[illegible]の羽衣まれよきくるつた
[illegible]岩ほのらなんの世ちやちを
松乃紫ぬぢうきぬ[illegible]
乃ろくおりきよのだりよひくや後乃
紋ぐるにりきる時しうや[illegible]
ちきい世とく浪よ色たるるだく
乃音錦を織ちるはしちふぢ
しの字をあらく[illegible]
ぬ惡ぬ乃拜松乃風みきいうり

浪乃音しきりよ風あらきこゝろのく
ならや呉羽乃手くり乃いと我とるハ
あやもゆう床乃あしどとまりちく
まちゆくまりまたりちゆうく光
悪魔もおそれざるむれやぎよをもりし
織人乃如乃のうく思ひ切て織女
乃はだまくあや織人乃姿れ精霊
妙音菩薩も影向ありまするおもとろ
よるおりらたらり乃あやを織たらく我
君よ仕りきまのみよ乃そらし乃天乃織姫
呉羽あやはのとりくふくれてあやも乃
とりく乃よろうきおりあうふる御代ろう
めでたかりし

白鬚

かゝる世尊西天よ出世し給ふときき
大聖釈尊甚いしゆきをこえて都卒
天より降し給ひしら我八相成道の
後ばいきり流布の地いづく乃所よ
か有べきとて祇ちをさゝんうちをあ
回ねく飛行して御覧しけるよぎまよ
むくとある大海乃上ふ一切衆生悉
有仏性如来常住無有変易の波
乃色一聲の声をきけりかゝまうくいづ
つ乃湯をあるいは乃大宮権現まんまし
このありうまは人壽二百歳の時悉達で
生れ給ひて八十年乃春九伏頭北面西

右脇郷桟橋の浪と消ぬらぬ跡まで仏
る常住不滅法界の郷神あれはあり
あし乃葉乃浮しに中津国を御覧ずる
るに時いまだ曙やらず何ともせず乃ばかり給
ゆれは仏法乃名字をも人知らず爰に
比叡山の麓さざ浪や志賀乃浦の辺
小釣をたるる老翁ありしを彼に向
つて翁もし此地のあるじたらば此山を我に
あたへよ仏法結界の地となすべしと宣
へば翁答へて申すやう我人寿六千歳の
初めより此山のあるじとして此水海の七度迄
芦原となりしをもまさに見たりし翁也
ただし此地結界とならば釣する所

失ぬべしとかこち惜み申せば釈尊力
なくやがて寂光土に帰らんとし給ひし
時に東方より浄瑠璃世界のあるじ
薬師如来忽然と出現してよきかなや釈
尊此地に仏法をひろめ給はん事よ我
人寿二万歳乃始より此所のあるじた
りしを老翁はいまだ我を知らず何ぞ此
山を惜しみ申すべきはや開闢し給へ我も
此山乃主となつて後五百歳乃仏法を
守るべしと誓ひてかたく約し給へば二仏
東西に去り給ふ其時の翁を今は又
白鬚乃神とかやありがたき御ほど
遠郷ある神と祝ひまつる翁乃其名はいい

かよおほつかな　今ハ何をかつゝむべき
いまつも鶴をたまはりて嘉あるり勅使となる
くもゐの中ほんとふくぞ今宵よ来りたり
蹴更と霄ハ天燈龍蛇神前よ来現の
時節あれハ増く御幸あふべし　ゆふへの
雲も立さハがく汀よ寄くる風の松そ
老の浪もよせくる鶴の齢とみつる
此我白拍子神うとく玉のひゞきを押
ひらき社檀よ入ておひきゆく
八乙女乃花衣いろふぎねら數も拜す
みなく神にひれまゐる折からかる
神る人のうやまつてよつく歳をまもり
しても是ハ勅の使おかさても柳あまり

あらめでたや社檀の内よりもく
織女卿成清気を生し扉をあつかれ
其乃あかきしろきやき清る白拍子の袖の見
にすゝ跡わすれ霊の御事やが
られきろくよあかりも唯君の御世を
此歌渡神をうるほさる　いかくさらハ欲
ととうらど神楽の曲を奏しつゝ勅使とな
くもゐの中にも宮とし　神楽さいらぐらやりこ
みたに鶯の竹のやさしく秘曲をかなて指
あとをうらつゝ遊乃神楽ハ面白や
面白や此神楽乃の鼓ハとかつあつふ
うら浪のおと松風ハ琴をあらへ志ん声を
まつまはれかくよあ海川見ゆる雲

イロエ キツコミ 早笛

升りやきわたりごをどろ乃雷鳴動する
る天燈龍燈の影現のや　天地の御燈
あらはれぐく神前にあかる燈乃
光り山河草木かゝやきわたり日夜はせ
うまつ見るゝ成りきわりかゝく有るもいや
明方のしらくてよしなや　あまかゝるまれ
いざやく明神よ御いとま申す時
神も御声をあげてせんざいくと感し
給へハ天女ハあまちよまゐ立ち来ハ龍神
そこ浪の上よりきりゝく波をたつ下をを
うわちゝく天地よわゝゝく呂山吉ゆきは
出ゆく雲も白髪のぐく神風治まる御代
とぞ成りにけれ

和布刈

其乃御産の時豊玉姫みづからむかひ乃
海りく産屋よとゞくわり姿をあらはし
見給ふ事なかれとて御約諾乃みことのり
定めよかりて猶も覗き給ふ趣まことも時
いかりけるぞくよ御気色いぶかしとおもひ
玉形くとよりくつまかんとすさせ給ひて
御まとうとうこかつらひなくかいろれ通
出と立ち乃波乃あれ御子を捨てて
姫ハ竜宮よ乃給ふ故潮乃ひきなれ
龍宮乃神ハ有あらぞきんおちくるいの志
やうとぞむき給ひしとききまふき
御まゝそ神代乃ものかよりぞためしやさるれ

神まつり神慮涼しき折を得てあまてるやかゝらぬ日
かゝる雲の上志らは下界の龍神遠かへつ
知られ心中まことにみつさ蒼海を清かに
あらそ我国乃長門のかよひ路をくもあらき
浪さわれうたゝら色こゝろれとくゆへ
うきや心乃まゝにかくかく 姓結縁もさ段
此方の人の為乃なるあつき「今をも行
とつても尽きぬ事をかなふるの 天津
乙女の雲のそて かさねし袖をも向ふて 参
うちかはれ「此ころ乃 まれは波路乃底より
あらはれ竜宮乃林ゝあめふらしや妙まなかつかう
乃天津乙女も雲よりのま八龍は荒乃浪に
かくれの所はきりやかくて還入あきりきり

みきはなる神幸なり彼方より 虚空より
音楽聞えて和らかしてかうきんてん 異香
薫ずる龍めい波をもかきまれそてかむ乃風
を立まふ秘めは天地不思議を示くしみを乃
時とうりに晴くや風をやをも乃竜女
をれは雲起り雨ともあり海も之り鳴
動して沖より龍神あらはれたり
「竜神もまれは龍まとく 和布刈
乃所の御庭をとうくち あらふやあらたに
こゆるき乃礒ちつも めとしぬらむそれ沖
小さき波 抑よるまは浪とふあそをまり
をけ屏風をたくるうつくにすまて海
庭乃御を平らたり 神め二をやまつ振

たてくびぶのまとうらく岩間とつ
きもし伊勢のくるりをすぎ平町より見の海底
のわが布とうりの江へは頃好く跡
ゆきはしりみちくぶるあらくおろ海
と砂くぶ白砂の見と和田社原天
をひて雲の浪怪ぶ波風海上にわさ阪
見ハなく風海上よりわさ阪見度蛇神ハ龍
宮よりんてうべよりきれる

氷室

皇國のく岩くく帝道遠よりんなり
ゆ日えりまくくるくく法輪つひに時せ
と陽徳たりをたりとして雨露雲雪
乃時をひくるとうを夏乃暑のよりるまく
きくめる氷室ひろ洲やよきて吹ら
ぶ岩ぶるるもや萬初河より有りうら
ぶのりくんれ色をくく都のあれ山
よりくや岩山の枝ちけこ乃もりは色
の下水よりつむる宮れ氷室山も水
を大君乃御歌よりてりるきに
神なくる月のわさ乃深世乃松ま有
りくる御朝まれるく移天悪氏
氷の初やだもくるるりきれ數盛
りくくるかりてきぶ御待をあするも
ぶゆさとくるゆへとのやあきハ年
たつ初雲のぶつ松の雪りきこ平
まれくるよゆくをれ雪れさりく

るやまをのごとうのまるくみつて
冬高れたつるとのきあつめて水乃下
水よりきいまて氷を室ぬ高をつんく
ばかりをまいまるもてなや夏山のあり
ぬまいづくく氷室れかまへてこゝさく軍
もあつかまのあるもあるる氷室とろ
夏衣なれを神乃ゆるきりきり苦
うたへなりや氷乃和のゆくゆ朝れ道
を直よある都よいさや海ん 嘗く
給ふあへしゆ山路乃はつあてゆう
霄れ氷乃はゆるのるまつ四落さよ
そもやひつき乃あるるふめるゆゆ有
やゝ年人うるぬ世山乃祝神本神

乃氷室を守護しなり毎年の神ゆ
有なりとつひむあへ神をあるくを
風松色よりもたくはけるらぬ富いふり
ちゝ山河の年末をるつて氷をきそ
ゆるるんよあるとゆ見へく氷室寺の階
氷をゆ年をとみてむろ乃らちよりよ
きりひむろのうちにへよまつ
楽よひりれくこゝろうの華れ神こう
ゆゆるるまを奏舞ゆ氷室の山れ
ゆんとゆ 高とあ
景ゆ乃ちゆのえもあ函照びに
むろれゆ調ゆあなゆ へるゆ
ぐだもいるきよきゆ乃ゆこれ物

長してふゆいとなほ乃なをうり紫花山河
も震動し天地もうごきくるふ
きりよ形をつくめくる紅蓮大紅蓮
氷を載く氷室の神殿にしかるやきて
り形をつくる　谷風水過ぬ氷りて
ほを叩くやく氷のたりく　葛
境をうつを鏡乃ごとく　清風ふす
ゐを吹きつて　海もうふき谷の戸
小雪の花　あらはいよこきりて
岩もあるも乃ぶ井れ氷ゐて
ちつちりをるをるうくうひしく
る氷室乃神風あらはやびやの屋
かしくき君乃ふつきゐやびくを

氷室

れさ咲るも氷乃をうむるを氷を
日ゐを入日ゆきとる氷乃
物れ伊へすゐへ行へやをゐへ行へと家ゐ
乃年の高とりくらん小忌衣の袂ゐを
ゐくゐ薄氷をぎたるゐくとりたるく
と氷室乃神を氷をゐうて日数を入
たくゐを氷とをうき清風を吹して紀
岩郁へゆきをわきを雪をゐのうて地
乃ぶくや数しりをうくいうきや
いをけ氷の初をうゐる所も安宮の
郭指くる伝れも日乃本れ君よれ調
ものうめてたきを

竹生島

〽あふる迄もちかきを　弁才天ハ女
躰にて其神徳もあらたなる天女
と現じ給へバ女人とて隔なし唯
しらぬ人のことばなりかゝる悲願をたて
して西貫年以後未つるやうな
より利生更にたえたらん　ありがたき
数にしあらはれ鳴乃物語を便りよよ
ある女ハ小舟の翁も人間にあらずとて
社壇の扉ひらきを押ひらき御殿に入
き給へバ翁も水中に入るかとみへしが
白波の立帰り我ハ此海の主ぞと
言捨て又波に入給ひけり
〽御殿しきりに鳴動して日月光り

かゞやきて山乃端出るごとくにて
かたちあらはれたり　抑是ハ此嶋に住
て衆を敬ひ国を守弁才天とハ我事也
其時虚空に音楽聞へ花ふりくだる
たる春のよの月に輝く乙女の袂かへす
がへすも面白や夜遊乃舞楽も時
移りて月すむ海づらに波風
しきりに鳴動して下界乃龍神
現れたり　龍神湖上に出現し
て光も輝く金銀珠玉をかのまれ人
にさゝぐるけしき有がたかりける
奇特かな　本より衆生済度の誓さま
ざまなれば　或は天女乃かたちを現し

右縁の元七乃諸形を叫ぶへ赤ハ界
乃竜神とあつく國土をたつぬ
あらハ宮中ふじ七名へハ竜
神ハ別湖水より起行して波をきそて
多とくしくたち地より出るる大地の吹く
ちゝ天地ふるくるる大地乃吹たハ新宮
ふるくるべきき

江鳴

水ハ山乃湾をくゝ赤ハ多れるるまま
多たり坂中乃砂清海より白雲の
中物を可よりうんひるきく翠庭
あらハれるる岩富の奥を形ふへく
城るる岩尾乃ちを海より落る水ハ
西天乃ぞ熱池の池多なるとや　孫
宝玄漏の仙人を池をたゝくく福と
ふ波右縁れ教をハ洪湾ふ来つくる
道ふく　二世毋楽乃洪湾より波り形を
叫けるるき　宮に又いるへ武蔵相模
乃境より鶴倉海月の間ふ波りさるふ
水海あり彼多海より大地をあり多ひ
とるて其叫ら五川あり潮準丸鼻
胡騨乃あきと服より白日をうれぬき
小黒雲をまつへ赤きの神武天皇より
足高仁天皇丸治宮を八十一代乃帝形
を秘七百余巻の祭ハを祭く國中に
らて人をとれ景行天皇丸治宮ふ

玉ゑ龍悪いよ〳〵らんなきゝ人皆ゝ寇
水源まする〳〵淵多の色濁り初ぬ天の
き龍よ向ひ泥り悪心をひる〳〵敬せ
ゝ世間の守護人となりはま帰の〳〵ち
ひを我ゝ〳〵〳〵〳〵

だちよ同年十五童子天紀の三月
らはきてうの[illegible]元年海度の主作方役
ぐも先福者水波乃勢百姓吐へ現者を
此樂後世志ゆうしゆうと言らゆ宝珠を
ゆよ指んと勅使よ見へを作つを治白神
樂を奏へ指へを指へ明神をみてま
ひ行ふ天人雪元菩薩乃神も
づくやと思日志ゆ波の立来る沖よ雲ら
ゆりくずやよゆくく乃ゆ潮ハ五頭
紀を乃出現うや蜀我昔ハふち沢の池よ
まもりく五頭龍王と称まつゆ西乃守
護神とゆる龍乃口ゆ明神也ゆ
ゆくゆゆんい乃秋〈

胡蝶のあきと眼ゆ白日を作ゆあき
ぞ身よ見ゆ雲をまつゆ若也す松も賢
ふ長岩尾乃磯くゆる上に行ゆ
神仏水波の満ゆ神仏多波乃満ゆ
生ん同一神乃利益も作まく社神方
天紀ハ威光をあゆ乃明神波乃
百千劫乃姿を身ゆんと約束ゆ紀岩
間とつゆ出ゆゆ海よ
光約ゆ多ハ波ゆ波もたつ乃品ゆ明神
ゆちま光威と振白雲をふきあゆに
ゆや夕眼乃光ハ天地ゆ満ゆ
天紀ハ臺ゆ作ひ雲のうへよゆ
ハ生ゆハ明神ゆ

をさまるつく嶋根を出てゆく時は
ゆくゆく海を雲中にあら
ゆくすくを雲中にあらはせ
に有りつき影向の郡

大社

祭るふ五人のまをれ〳〵國民東一をあ〳〵の
れ大明神とあらはれ給ふ也種類色々
第二ふ八澤乃大明神九例也あるゝ乃
明神と弥生ふ弥生ふ弥生ふ弥生ふ乃ん
や也れ神常陸鹿嶋乃明神くゝや
先四ふは乃大明神伊勢乃御殿の
明神と則紀〳〵あり〳〵まふ第五ふは
雲陽乃大明神伊豫乃三嶋の明神と

ばゝふ是紀ふ清水寺日記ふ長
月やぶきのみうらに
所八影向ふる弥乃神ふ十月一日乃
寅乃時ふ影向なり極く色乃神
遊ひ給ふ絶ぬ神宮所なるも中く
是紀る哲ひ御へ〳〵ウきに者物語
ぐくお世おくも清水紀神乃國ふあ
らきあれ中くなを年ふ乃とあの
霄れ神あそひ給くに
あくふる神達の舞歌乃神びくやくめ
乃あくをれと考ゆくる玉垣ふ屋よ
るとみくぶるる神乃告そと云とて紅
垣よへふきり社壇の由よへふきり

出雲時雨る宮も雲も出くぼ月も輝多色より
作殿よりいとうなるもの
出雲乃みはらに迹をとゝして佛法を
守り給神乃地十羅刹女乃化現なり
容顔美麗の女神乃神ゆゑ光りもかゝや
多面の年ゆゑ白ふ袖を振て後遊の
舞楽はたゞ[illegible]やうの
乃神ゆゑおのくやう雲乃ごとくまとう給
神はのこゝろ歌を[illegible]日宮楽を奏
神前より発行しやうく安をあらう
給へとゆめ乃月も雲隠くゝえうも
きゝ乃垣ゝやき神神あらはまゝ
まゝ久にやうきゝ乃相ゆゑ

天王舞 迦キ迦 キ反

たゝりなる神徳とうらゝもゝれ思う邪
迷来遊れ神祭ぐゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ加
乃まれんとあるゝ乃ゝめん 相神楽の後ハ
住吉明ま 微妙無面ゝ乃三千世界の
作神ハ変小歌面なゝ乃ゝ乃小忌の神
ゝゝくも面白や 神楽もゝ夜ハ明ゝ
くゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ時雨る雲乃沖よ
ゝゝやて吹ゝ夜ハ海龍王れ出現乃や
早苗 松見ハ海龍王とハ我事也扨ゝ毎年
竜宮ゝゝ乃箱よ小龍をいゝ
神前より指や竜神則あらはれ
てゝ潮を退を汀るあう
ゝ乃箱をゝへゝ神あをゝ

作者 [illegible] 住 [illegible] 河竜神 [illegible] 箱乃ふくろを
[illegible] 怒りいかき小龍と [illegible] 別神前
よりこの方ハ海法ふかく治る治代のを
ハあり叫び [illegible] 四海西へ [illegible]
国治まる [illegible] 五穀成就福寿多波
ハよく [illegible] 守る [illegible] と [illegible] 乃
ねく神 [illegible] に [illegible] を [illegible] 神河
きの乃ちやまにあり [illegible] 龍神年
地より波浪をあらつ [illegible] ハ [illegible] ハの
[illegible] 神ハ [illegible] に [illegible] 豊満 [illegible]
ばにあり [illegible] ある神ハ [illegible] 社内 [illegible] た
[illegible] 神ハ社内竜 [illegible] 竜神ハ海中に [illegible]

東北

[illegible] 波の [illegible] 天地を [illegible] 鬼神と [illegible]
[illegible] ことわさ神明仏法の冥感を [illegible]
[illegible] 時あり [illegible] 郡 [illegible] 井の [illegible]
[illegible] 四を [illegible] 天道よ
[illegible] 詠 [illegible] 前 [illegible] 九宝乃 [illegible] 小
乃 [illegible] 地 [illegible] 王城乃 [illegible] 門を守りつく [illegible]
魔 [illegible] 永乃 [illegible] 山法の [illegible]
河 [illegible] 白川の海風 [illegible] 緒
[illegible] 常楽乃縁 [illegible] 遊 [illegible] 地
水をたく [illegible] 愚 [illegible] 池中 [illegible] 樹僧
[illegible] 月下 [illegible] 人 [illegible] 帰 [illegible]
[illegible] 深く [illegible] 有 [illegible]
[illegible] 郡 [illegible] 仏 [illegible] 国法の

すく順道の縁ハいやまさる日東[illegible]
ふ懸[illegible]九夏三伏のあつたさもく秋ま
さとれとも[illegible]間底の松乃風一聲乃[illegible]
きをとりのゝ[illegible]上求[illegible]
池ゆゝ[illegible]月影ハ下化衆生ゝ相を元
たり東ふ法陽ゝ時節を出[illegible]
[illegible]地[illegible]ゝ[illegible]の[illegible]
やゝ[illegible]梅乃[illegible]色[illegible]
[illegible]
[illegible]色[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
古墓ふ歸る[illegible]
ぶたくと[illegible]方丈のともしひを
ふ和泉式部[illegible]方丈の室
に入と[illegible]夢を覚ゝ[illegible]夢ハ
[illegible]

芭蕉

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

きるる哉ごとくにもの柳くれめ荷よ
たちてやるべきを裏たを秋くるゆ
音信絶庭のあさくらくもりよきそよ
かれ秋とそくるかの名寺の門の
草ゆふくれといふへ色花風の名よ
のくれ芭蕉紫れとろくも落る露の身を
ぞそ宵のそ虫の音のよもきりとと
心の秋とそもとり落ちんよりや思へ
寂めのそ月芭蕉紫の夢の中は
底れなくぬ涙あくるぞきあへ人心
ひいるさの山をあまし明月そくり伴し
訓ぬ宮秋の風の音記めちきき小蘭屋
結のよ初思ふ立まふ神ちくいまくらへ

こゝろひを月もちろ文ち庭の衣ち
をのちる風霜の寂のぬきくろよ
ふくく草の秋し久くのくあまつ
しぬれ羽衣ぬれや昔ちを紙の天を
をの月たもも芭蕉のあふ
きの風ちくくとわもくきみる事の
庭のあさち風ちくくりやわかも
きくろふ露のまふ山れくれの花ちち
くくの花もの秋も花ちち
月ちくよるれ芭蕉はやまくく
踊りちり

江口

あるひは人中天上の善果をうくるへも

顛倒迷惑して未解脱の[illegible]
或は之を迷ハ種乃悪業より堕して患ふ
らむ〻既よ数四のあるを先ふ無
ふ物やらたまく受ひ[illegible]きん身を受く
[illegible]を罪業深き身とせんとまた
めーもくあさ河行乃流れの如と[illegible]
ぢき乃世の酬ひ色ぶるや反社悔きん
紅花の散れ河〻紅錦繍れ山粧と[illegible]
[illegible]の風あり[illegible]紅葉の秋乃
[illegible]黄顔顔は林[illegible]
[illegible]月よ詞を高り[illegible]賞
[illegible]翠帳紅閨よ
[illegible]背もいつのまふかいつ〻

[illegible]四あき世[illegible]本情ある人偏乃
[illegible]過ぎ[illegible]
あ[illegible]時[illegible]色よりこ貪[illegible]乃思ふ深[illegible]
[illegible]ハ色[illegible]愛執の心いとふ[illegible]心
[illegible]思ふ口ふ[illegible]妄言は縁とする物を[illegible]
や貴人ハ六塵乃境よ迷ひ[illegible]根の罪を
つくる事も[illegible]
[illegible]ふ迷ふこ[illegible]
[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ

[illegible]

千千

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

小倉百人一首

[illegible]

四面に楚歌の声

[illegible]

[illegible]

[illegible]

世上にきゝをひろめ情うちふこゝろ
紫のよあくるくたなり世をうくた
ゝしあほうきうきうの高砂の大君新ふ
海ひみちのくのおのふとちとり雅も
皆ごとものあるうちくまふ
ちくうきれと狂をなとゝ
大君の心ときうしふ家女あり
めきのくうきうの家女の
情ふ心とを歌風もつくかりつ
きはあちふふ海うへふる山の井
あちふふ人を思ふ心れ
ゝたまり雪ふ女をるすや
くや紅きの家女の歌きの色ふ

うる花鳥のうふ雲の袖ひを
もやくるやちくきの海遊のみされ
うを家女の衣の色うてお人れふ
衣様をのちあたりもちん
やうを色ふあやをのふ節歌の曲指を
ふへ袖をのへく遊楽收納
家女れ衣うをへるる高きやや
曲水の妻の有時ぶ色ふくく迎
を首羽れ月ふくふ山ほうすぢそ
ひかほるくよ歌をとうをく遊楽
月ふるをきの家女の井のほ
とくきと天津ふ神の色よ
万代と浪ふ初をあま歌の人もつき

ぬ巖もくなる世の松乃緑のくちぶり
をすもゝ山乃ゝるゝ山乃ゝるゝ鶯
乃跡絶まを天地をゝやゝ風公安穏ゝ世
海波穏なり後法乃池の面後法
池の面小水泡ゝゝゝゝ浪ゝゝゝゝ
をゝやゝきゝゝゝゝ雲をつゝ面をゝゝゝ
うゝゝなり遊楽乃ゝゝゝゝ
たゝゝまゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
緑ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
浪ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

楊貴妃

千年ふ二十五万のゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

乃四別の楊ゝふ水別れ千年ゝ升ゝ行ぬ
いゝんや若ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
おきゝゝとゝやゝゝ秋もその月ゝゝゝゝ
絶たゝゝゝゝ昔乃ゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

[illegible]
[illegible]
[illegible]

叩きて頼こたひきるにらくの乃ふ
乃ふやたき西河の瀧我こそ
ても波ハ叩つるかり
世木陰は花の名あるたまくぬ奥山のを
とにらハ
ひさのやまつこわを迷ひゆく右枝
ゆく唐土のにらくハ花よりを
弦月よゆきをとをのうよもつゆ
花とみんてハたるかく慣むサ年の蛍の欲
もちつるかてハ
ちる花を追手ぬ
ゆく奥深くゆく山路
らつるハ頼綱よ石ゆさきもつハ華ぬ

序辞

ありどくくと有ーうハ四もこをぬ第の他
どにくくもうらめ自ぬ昔ぬき時の和奇
時やもの川ちつやーつもつのをくまき緑
ーー昔と今ふるるもれ思ひ久
きはいるへも花くるかうさ幸の
ぬも恨ふ白川ハ流めをいもつ
めぬ事ぬ和とよ深せのなるひれと
思ふるうる花山にうるふさる花の
まの風静のあるをらひ紅へ

班女

夕の風あるるを伝きり思ひ人妻ぬ
ぬひーきふハの鐘の音ぎいろくの山よ響
つ帰あんるてあるを偽ー世めて

国漏月うるをぞうつ枕よ初めくれてゞ
榻ぬよ如めるうやう翠帳紅閨よ枕か
らふる庵れとぎめ〜みえまのすうを
同完恋伝夢ほれ〜なれもれる世
乃命のうを乃うるもこゞつを草の露れ
まゝ比翼き枕乃叩うるひを礒山宮乃
私語し頼う安仏くくと乃世を漏すう
光陰よりを秋毒乃秋ようえよ叩るう
すとゞよの枕ハ今るれとあて言栄紫
人心頼めくうぬ秋をつとれゝ楠干ふ
ゝうくうるゝ乃ゝうよと詠ひまて
ゝ蓄の秋風ゝくう山禽鄉ゝあの松
をうハ音信れ秋まう人ゝ乃をと

作れをつきう角ものうゝ
扇ゝよめくゝ乃たうゝを思ゝ裏も
すやきき乃まゝれあき風ひ風くゝふき
家ゝ国言の扇もゆゝるれ乃をゝも
ゝうくゝ秋風ゝうんあうゝやゝ思ゝて
ゝきもゝうあゝをゝれゝゝ其ゝく
ひゝれんゝ乃ゝをゝ人をゝうゝ心
ゝ嗅れゝ乃ゝ秋を思ゝ
ゝうゝ居れ秋西ゝ国ゝ乃ひき繪よ
ゝうゝ月を叩ゝて懐よゝれゝたゝ
あゝき月神ゝ三度叩ゝ秋其いゝ
衣のゝつまゝ乃ゝねゝとゝ叩ゝ乃ゝと夕暮
乃月日もゝさゝうゝ秋風を叩ゝゝ

の栄乃うらくけ鹿乃
音宝の名もつまく乃奏うおるるや
秋只乃扇よりおくれらうれもくあるわ
さ人心ありきさうや虫のきとハ身さや
あつくさう色ハさるあをく

無井茶

傳史淘茶ハ白蹄とともるひと玄他とふよ
籠りのくれ乃智暗をもつ〜紙よ呉
きを元りて白蹄の本意をうつをとや
幾るハ白蹄ハ二度よをとう會他の和をを
すきも淘茶切をあをとやハ生ハ鉢の
尼乃ふくまつるを身よ任せ切ろと
う貴く心乃うくあるへうを切ハ名こ

生きくみ去りうくハ天乃道と四えく散
紅よ掉ハ五湖の去を潤をたれ世
ハ枕し石明乃月のうをとう枕
て西海乃汐満よ舟きハ乃科乃ものき
うを鶯き紅ハく頼朝も紙ハなしく
青柳の枝をつるハ契ゑとうハ打
をつへき たく頼紙 頼めをもちの
原乃ハ色くさ 我世申よおん張ハ
ハくる詠乃偽るくハく頼て出代ハ
無乃 紅る色をもつるをとくよく
ゑやもつるをとくよく
ゑハ判官も橋乃宮りと出絵
を辞ハるくを原 直宝めき枕く
関よ出をハ別 みるハ紙ハくく

紅葉狩

林間に酒をあたゝめて紅葉をたくとやいふ面白や所うゝ岩ほの上に苔むすかゝるく袖も濡るゝ衣の露世の人々も思られと獨すむ身は計なり人心乱るゝ山の八行の紅葉の錦折くるゝ人の目しばしの間も盃に浮くる酒の波に紅葉の花を誘ふ嵐の山の秋の夜の月の光に照らされて道を忘れて帰るこそ侘しけれ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

夢の世とぼとゝぎす山路ひとり旅ゆく

あくぬ日の露の花源氏のわけ入ると思ひ

吉野ひよゆき西ふ ちゝろ木もまこの道の

まく絶くれ中ゆくり ふる思ひたて行ひ

行ふ心いとゝ有りをりや あきの紅皆

枯ゝろつく出の色も ひまくゝ松吹風

響まてとぶひき道とゝく 秋の叩

ゝもたてゆくて居宮に踏みて 三日

つ情を無く板ゝ乃ぶ 言葉の家し色とれ

心のうちゝ有なる 其ほゝろれ御後

きゝゆふかもく 汀ゝ 草のよゝ

ゝ心乃水よ 誘ゝ ゝも鈴鹿川や

ゝを乃流よぬまくを 伊勢道 雅ゝ思ゝん

乃ゝの紫をそひ行く 幸もたりゝあき物を

親とゝ乃ゝ きの都 端よゝ ゝ四ゝ

ゝゝ ゝ ゝ

ぬ山高久其名とゝ ゝ行へやゝ ゝ金下心

ひゝあき分とそゝつゝ ゝてゝよゝ

ちゝゝまゝ ゝ其ゝを ゝき分ゝ

同ゝ行へ なき分と ゝ城ハ

世をゝゝ ゝ

御息所ハ 我ゝゝと

其の同乃夕月夜 敷響 この乃 黒木

鳥井の二柱 ゝ立ゝ ゝ立隠

き失ゝ ゝ 杜れ水流の若衣

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

定家

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

露はなる[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]

たなびく[illegible]

山[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ある法乃そへおまぬき露のなくなを
きく　みくもなく　うゐもなき　一味乃
法乃雨の恵皆うるおひ草木
四天悉皆仏乃きこえぬまぢ家菖
とかの源とぞ　ろくとけひろめれば
ろくと是弱車の火宅をぞ　右翁さ
よ洗新恩よりはるかあるべ雪井の花
乃神ぞ首をかふ石の華座のそこ
衣　おとなの華扎　右翁やあ　地色乃
華乃　ありはやあ　だれやあ　色の
右翁やあ　本ち洗身ハ　月九色せも
景ちりかふ　乃まぬすも　たちふ

露と消てもつるるや蓮
乃葉扎　菖蒲乃神遊おろやあ
なの葉乃夢の中ふと有つる前よ泊ハ
菖乃葉扎　ぞとのろくだ　ぬまろろや
定家　ろのろ　ぞ　ろろや定家ろ
ろ乃ぞろ　ぞ　ぞ　ぞ　ぞ　ぞ　ぞ　ぞ

井筒

其ハ紀の右常ら娘と契り　時貞ハ心の
さかろ　ろ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ
望よ　る人ありて二道よ思ひて　面の紅
ゆふ　ゆふ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ
本君ら　ゆくんと　ほつ　ほ　ほ　ほ　ほ　ほ
の道行　と思ふ心　ときて　ろの契り　ハ

[illegible]
の[illegible]をもとりあつめ渋谷の[illegible]人の右
きるる宿をあるくて門の前をつよりて
うるひこの物くちかくしたるひる歌
を水鏡面をあるくに神をかき心のあし庵
あるくうる月日も宮仕とくれとあるくハ
ちかくあるくまつ人ハゆるすあり甚だ被まあ
男ぞ栄乃露の如章の心乃花も色そ
ひろくつ井角のつよかきまるたゆ
若よきるあるいとの乃ぬる海まと憂て贈り
きる程ふそ時ぬしくへ[illegible]わき髪ぬ
ひるる[illegible]ぬ[illegible]て紙ちあるへきところ
ひよ讀ゆなれやつ井角のめりきこえ

そ方常ら娘乃ちきあるへ[illegible]ろやふ
[illegible]物語ぬハ卿ある方格のあややあの
[illegible]ハ我を意ろも紀の右つ
移ら娘[illegible]ぬ白波乃立南山ろハよ給[illegible]く
[illegible]ハ[illegible]ぬ[illegible]
紀乃ハ紀乃方常ら娘ぬ　ハ井角の
ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬや[illegible]
乃ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]
[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]
月ぬ昔を[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]
昔乃ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]
名ぬ社たて[illegible]櫻紀年よまれぬ[illegible]
ちきりぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]

いにしへ[illegible]升つ升角の昔ようぶゆゑ槻
弓年をへくぶ[illegible]世よ業平は逢のか
そ[illegible]ゆくりや昔写ようの年
高と四もと花乃袖[illegible]昔うた
狂歌乃寺升みまる[illegible]
月やあらぬ春や昔と詠めしは何の比そや
つく升角つくば升角よかき[illegible]まろの
たき老みきるか 老るそや 伊勢
みえ[illegible]昔男乃冠[illegible]
き業平は面影[illegible]
なつかしや乙姫[illegible]乃姿を志ほる花
乃色ゆく匂ひ[illegible]在原乃寺の鐘
もほのぐと明まハ乃寺乃花乃やそ[illegible]

だ乃夢[illegible]被神[illegible]醒よ[illegible]ゆりハ彼[illegible]
あきに[illegible]

夕顔

中ゆし洛夕顔の表ハ[illegible]
情の道し浦[illegible]
何よ通[illegible]中宿小唄や
[illegible]の[illegible]
[illegible]
行乃つ夜よ[illegible]
[illegible]
色ハ白露の情とき[illegible]言の葉ハ
[illegible]と寿[illegible]国乃扇の色ときたく
ふ秋乃契りとハ[illegible]

乃達ひのことゝもしたゝ世はかく計ばかり
きる蜉蝣乃命魚くる程もなく秋の日や
もく言いてく霄のまもる古綿乃れ
ひくきしたろろ〳〵風よまたくとき
大乃きゆると思ふこゝろておろとられは
うゝあ乃やゝれう乃人もるくいろせん
とゝ思ふ汗ろ〳〵かゝ人をつき消て後ろ水
の流とのこゝろをもてゝ多敷れ花はみて
ひろ〳〵めやと夢よ朱りてゝ〳〵ありつ
るめもかきをきやうよ先ゝ
いたゝろはあもとゝ月見りてゝよ
あゝつく流華少くも四の拜絶氏弟姫
流り紙ゝ〳〵乃ゝたゝよ山ハ五澤

乃つゝゝきゝ亀孫をのく光花
ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵

て、僧乃面の弟ひとうけくぶくられ
しやと夕顔はたそのまゝ　雨くれ法華の
花ゆゑ少し、変成男子の願ひの糸よりの
色乃神ありくこゝろひいが行をつくまんとこの
世思へば音羽山嚴乃杉はかりひなく
たるゆこゝろ乃迷ひもるや簾内は道よ
と法よりるとあきくれの空きく雲の
あきまよ人よちる

佛原

始は妙きをゝとゝ巡幸れ寵愛ゝ
ゝゝくて色香をゝゝ
ゝゝ乃神のゝゝ
ゝゝ乃ゝゝ
ゝゝ宮世のゝゝ

仏法前をゝゝ
ゝゝ世を秋風の音
ゝゝ源の雨しゝゝ
事ゝゝ社浮世ゝ我ゝ命ゝ
きゝく乃花一時のゝゝ
ゝゝ花ゝゝ
歌ゝゝ思ゝ世ゝ
乃ゝゝ社教ゝゝ
の法四ゝゝ
ゝき世乃ゝの奥ゝき草ゝ西山や
ゝきく思ゝ思ゝ
前乃ゝゝ
於ゝゝ

[illegible]

合せ風波を流す計なり〻昔流りの楓

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

露の形もそく　草堂の

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

鳥心音をなく　後世の四成字まはろれ
雁のうらうら　れも右まつ　人間も
雲水乃ごく　天を流つる　浪乃ご　高の露れ　始めを
を行とう　始す　第の神一歩　あけ　ひるさき　社
を乃　華といつ　ひとと　ひとをく　先よを
ひやうとい　ひとく　先にきり

半部

ひても神をうるをは　廬山乃　富れ　ほの
そうそうして　むりの　ひろ　きり　ひく　ひき　ひ　きり　よ
あ　ひ　ひ　ひ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]ひ四はるいもとのつまくとへいそ[illegible]
[illegible]の我を思ふ四をそなくそ其ゆあくれ立い
[illegible]
[illegible]二月やすくい霄あれと月八稚らハ
[illegible]行日の本れ中よりの[illegible]ハ我大
門よ有りの遍照りつ[illegible]ねし花の数積るあく
たけと行りつり思るもくれも逢ひ行ひ限
[illegible]ひの待婚もくい後ひ
[illegible]まめ男[illegible]ゆひの友ハ阪
[illegible]信濃路やその
[illegible]将軍の祝と冠れ[illegible]
[illegible]二月乃そう吹き月む
[illegible]ハ[illegible]
[illegible]とり[illegible]

もくくとだうりくくも逢ひ行秀 思ひか
たり来遊乃曲 あ[illegible]まうてを月やも[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

うりて天の羽衣浦はよそれのきたるの
[illegible]の松原うきぎ潟の雲のあなたや富
士高根のとりよ[illegible]く天津みそらの霞よ
まうまうとくぞなりぬる

六浦

[illegible]元青湯の言の初めの音叫ある梅うえの乃つ
[illegible]ぞあるく詩人の四や春ふ四めるん　みを
梅の花盛惟雲[illegible]乃三百節のあ和の花
[illegible]ふ[illegible]ぞ[illegible]月日経く移きハ四の花
るあ四ぞ梅を影　庭の面に咲つく卯の
花の垣根や富士の[illegible]
秋も[illegible]ぬ[illegible]
のふ[illegible]

下紫ぞ[illegible]ぬ色うやう[illegible]
山里ふおうる[illegible]
岩紫の露の情に[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

加書願寺

神ゝひ佛ゝひ唯是水波の満るり然
るゝ和尚の教ひろく一神多のあらはれて
凡生涯度れ出年をたり 出ては毎一度
を西方浄土より面ひ給ひて 来迎引接
堅ひとあらゝ 松ゝまんの 金蓮遥り
竹の孤雲れ上るめや 行ゝ 来迎と落日乃
前とりや 世自在寺山の法名法華一仏乃
西方の法地ぬ 慈眼視 凡生あらはれて
ちやいちきん 観世音 二世利益 同一神 多種
や我ゝかたのれ悪鬼ゝるり 若狭 佛出
ぐりをゝるゝよの人れわ ゆきゝ

き 関法乃 仏 般のゝるのき 揮 ゝて 濁
彼岸 ゝ ゝ ゝ

西行桜

九重よりはさきも花のやへ桜ひく世の春をかさぬらん　もろ枝よりまれの名高きをまつ初花を
ちるあるは此衛激のいとなりけり　柳桜とこきまぜたる都をまれ錦作せんたりぬ
なの桜を植をきけるいろ前
乃ゐよんにる千年れ花ちり雲霞や雪
よのこ彩ん泥洲門堂乃ちれさろ
天乃栄花も是ゆ入てまにるまぎ
ゐ黒谷下河原ひ遍照僧正乃ア
せといとし彩乃山ぶ乃ゐまの花乃色
ちれなり清水寺の地をれられ枝吹らせん

青葉山ちるふ見山ぶ乃ちよ行ゐ瀧津
ふ入まるくも彩乃大井川井ちふ宮やひく
ゐん　ちるやうすそ乃時乃つゑ　桜花の
鐘ゐ名郷ちそうち
遊やゐ行ゐ世ゐ
たちい和ゐ乃ゐ彩ゐ時ゐひい
清香月よひけ香乃和の乃ア花乃ゐより
明ゐ乃ゐて　ぬ
ゐわ乃ち社ゐ也　ゐ
まくゐきろ　ちゐ
ゐ花ゐまくゐ乃ゐ乃ゐ
ゐ乃まくゐ乃ゐよゐ
ゐめゐろゐ　ゐ彩ゐ

をれるく横笛し水年乃ぎの長八順ホ
きりや筋けひらく波乃ぎ

遊行柳

則祖門よりをんなの一染れ紅乃ちらるくやゝ
祖皇帝のくらてきり心ぞのや秋空虫の音よ
ぎるく柳の一染れよ蜘蛛乃糸くらかよ
忠ゝ引渡る蜘蛛乃糸ぎれ道先も
柳の徳ゝくやゝ甚外吉宗革清宮ホ
も宮前此楊柳寺ゝ乃紀とて詠め絶
ぎあゝ木ゝ清そのゝ落湯や清水寺れ
いゝ五色よみえ〳〵瀧浪と青巻ゝ水と
陰色の光ゝ杉木此柳忽ゝ楊柳観
音とゝゝ絶ぎゝ絶ゝ利ぎ

なるく歩ぎえふ吉地也ぎ八都の紀盛
お宮人の歩遊ゝ瓶鶴の庭此面ぎ平乃木
浅枝ぎゝ言ゝ皆此音 柳桜を
てきまぎく錦とかさる 清人の花やゝるや
こゝの浦浜ゝ乃の匂ぎ平個乃席の
引綱もゝゝ思ゝよゝ此の吉柳の及
ひるゝ遊ぎ
ゝ乃ぎ
ゝ乃ぎ
きゝや花木乃柳 乳力ゝ
ぎゝ夢人と視とみるゝゝ
ゝへゝき法の道 迷ゝ月よ傾て
柳 責柳ゝ言ゝふ如此のまゝ 柳紀
完ゝ だもほゝよ 柳乃曲も歌節

善薩の花の枝をたをりくもの上人の内侍殿
うをぞろこふ報謝の事も是過ありと給
乃なみ〳〵の　ゆふ　なる　ぬきる　まけ柳の　いと
内中にんとゆつの　つ　の　鳥をおき　ゆ　乃
曲よハ　柳　瀧をわうぬ　手折　ハ　あ　を　やきの
ぬ　も　な　を　や　く　よ　む　を　ふ　花　れ　枝　も
す　る　く　　肖　を　ふ　り　る　う　乃　風　や　い　と　ち　ん　ぬ　を
だ　よ　ま　ち　を　と　も　ま　ち　ま　る　く　ま　ま　く　と　だ　れ
う　柳　る　ね　の　床　乃　草　れ　地　の　ち　を　乃　契
ま　も　他　せ　の　縁　育　上　人　の　情　法　面　吹　秋　の　ゆ　う
ち　れ　ひ　露　も　本　乃　第　も　教　く　ふ　嘉　も　ま　れ
つ　ま　り　く　る　ま　り　果　く　雖　ら　行　本　と　敬　よ
き　ま　と

然師

花前よ蝶舞紛く　音　を　柳　よ　よ　鶯　ふ
行く　る　る　金　花　ハ　流　水　よ　流　く　香　乃　来　る
車　ま　う　鐘　ハ　寒　を　雪　を　濁　く　色　の　ま　る　る
遥　く　る　清　水　寺　乃　鐘　の　聲　祇　園　精　舎　を
あ　ら　り　諸　行　無　常　れ　く　ま　や　後　地　を　往　現
乃　花　の　色　娑　羅　双　樹　乃　ら　う　也　生　者　必　滅
ま　世　乃　な　ら　ひ　な　る　た　り　ま　る　粧　ひ　ぬ　も　え　る
捨　く　よ　の　ま　ま　ハ　雪　よ　上　乃　く　ま　ぬ　鶯　乃　れ　山　の
ま　と　ま　と　ま　を　を　を　を　を　を　を　を　を　を　を　を　を　を
花　も　ま　を　を　を　を　を　を　を　を　を　を　を　を　を　を　を
ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま

乃山のうと紅葉の秋のあを吹つ紅の秋のあ
はれ哀は清水の流をよ頼もうき哀を
ちくの花盛山ゆかしき音羽ゆくの花雪
深き情を人やきる　なほく織よ材面のうく
花の初はいつよ　うく材面乃ゆ来て初を
初ゆよ　哀心乃材面やゆ哀面の　ゆかか
らくく　梅花初を惜まぬ人やあれ　ハ三花
ゆ乃ゆ　哀ゆるうらの梅花あきられいぶるよ
きん都の春も惜きれと　ゆ春ゆあつまの花
やゆん　うう道理ゆ　春也早く嫁うるる
う東よりもとゆへ　行ゆいつ風とゆや　中ゆ乃
春ゆくゆり移ゆく　あく嫁やたくゆ
おゆも観音の山利生ゆ　是遠なりやうゆ

やゆ　是まて乃ゆ　やゆ嫁やゆて那よ
後ゆ　ゆく哀乃ゆ　ゆるつきたく洗ま
ゆゆいと風とゆつも花鳥ゆあくあゆまちさ
て行道の後ゆやゆふ逢坂乃関の戸乃
ゆも心ゆて明行鶴乃山みえ花を見をつる
風全乃ゆ　ゆ嫁路我いまゆあつまよ舞れ
乃ゆ

松風

哀ゆくやゆもゆつ乃世のとつ春
松ゆも材面を神のゆぬれくゆるやゆ所ゆも
乃風哀ゆ乃ゆ　ゆゆふゆ嫁吊ひ
くたひゆまゆ哀ゆ露も散ひも紅ゆつ
ゆくゆ心程風よゆれ衣のゆ　ゆゆひやゆふ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

たゞ浪まもきよたゝ[illegible]

ゆるゝ[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

きゝ[illegible]

雲雀山

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

のて稲乃二番もくぞ[illegible]

[illegible]成くかつらきや高間の山乃麓つゝみ宮

小紀の路乃さくひのるを薩山より陽炎て宮の

あらたかりけりを[illegible]谷陰乃鶯の[illegible]

[illegible]

遠近の　たつきをしらぬ山中よりたゝるも

[illegible]島乃雪春山よりゆ[illegible]

せくゝ　やあつたにかゝとい乳母の侍従まそ[illegible]

きゝ豊成をハ見られてあるゝ物も我姫うゝき

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

抽出て、[illegible]心易く思ひて、我
池の[illegible]を[illegible]宣ひて、夢の最中に
きり感久貴く思ひて、新[illegible]の心得
頼朝卿を国司近衛の[illegible]
あくたなる[illegible]信盛の[illegible]
名を夢の[illegible]心[illegible]盛清と[illegible]
[illegible]をとあらはれ[illegible]
感久の[illegible]命の千秋萬歳の[illegible]
夢と[illegible]
[illegible]
平家譜代の侍郎墨の[illegible]
[illegible]

て草履の遊路の[illegible]酒宴よりとりぐ[illegible]
感久一曲一指の事[illegible]
[illegible]
[illegible]
命ありて感久の[illegible]
[illegible]
海の[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

安宅

[illegible]や現在の器をみるに白云寺跡をもると云
事ゆゑよきかくめるく所の上ふるき年月の二月
やどの丁目に宮の[illegible]の絶と迫きつる社のきあれ
唯の[illegible]に十余人[illegible]の[illegible]の[illegible]
ひよ面を合をつゝぶく討なるゆ極られ[illegible]
義経ゆ馬の家よりされきて[illegible]を彩りよりが
[illegible]と西海の[illegible]よりつゞく山野海岸よ起めあら
す武士の鎧れ神祇ゆ[illegible]薄し波れと[illegible]時ハ
毎ようひ[illegible]波よ所を行せ有時ハ山[illegible]
ゆ[illegible]帰もみゝぬ言の中ハ海をこゝ[illegible]ある名浦
の立ゆる音や[illegible]唄ゆ[illegible]ゆく[illegible]れ後も
ゆく[illegible]と[illegible]しゝゆ[illegible]の其志[illegible]もいろ

[illegible]りちつる[illegible]ゆ[illegible]も何とつる[illegible]
[illegible]や[illegible]ゆ[illegible]叶[illegible]ゆ社[illegible]世あれとゆ[illegible]
ゆとゆれ思ひつきあつさゆゑの直ゆ[illegible]
若[illegible]ゆ[illegible]ゆまよ世よあり[illegible]
南の雪をこゝ面ゆ[illegible]ゆきこよ貴[illegible]れ埋
ゆうき月を[illegible]ゆ[illegible]ゆよ唄世ゆ[illegible]
も彼[illegible]ま面ゆ[illegible]ゆ恨ゆ[illegible]世ゆあ
恨ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]世ゆあ

情の面よりきく四をとゆ世[illegible]ゆ[illegible]
き行く人よ四ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]
ゆか面ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]
ゆよりよ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]
酒をのまゆよ面白や山水よ[illegible]

てを流よひら〳〵と曲水の詩まつ作へきる神ふ
きてくい所や苔ひとまりつよ岸辺弁ふ所ふ塔
の遊僧まひ延年の舞和奇異なる山水ハ
流く巖よひくくとり　なるハ激る水
ゐる者激れ水哭日をてる絶ハとうかう
〳〵やくくたくやをうられ心ゆる仏の開
寺乃人くいと爲ゆくりふよとくゆをれ
つ弘房ふうりかき麓乃尾をふ毒蛇の口
をのりまてる四ちうく清奥乃国へうりり

歌

錦木

ゆつるうよをりあるよ行も貢をあら
ハせとの市僧乃仏よ殺ひうく織細布や
錦木の千度百度をふることてし沙執心ハよ
うつきー　絶まをゆう逢難さ縁よよ
りくゆ物ゐる一業所典乃功力をえ母と
懺悔の海夢中よ行もあらはすゆり
おつとハ錦木をきこえあいうちよ細
布乃機をる虫乃音よりてくうゆ遠
社ゐきまをだうひよ内卯よあるうとハ
ゆゐれをくく中垣の草乃戸乃ハきまく
ゆくゆハ沉よ明きあいきこくと立ゆり
ぬ玄程よ見ひの数もつりきく錦木ハ
も打て広ゐゆ昔よ理木乃訳ゆれぬ
方ゐうハかくく思ひもいまるへきよ錦
木ゐ打きをゆハ立ちひくあつを

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]も藤山宮の私語を初めとす
るのよおくるる露の御帯生産神社
[illegible]秋の霜[illegible]
[illegible]のつく迄[illegible]
岡迄[illegible]の義[illegible]
[illegible]世を思ひ[illegible]
[illegible]を[illegible]
幕の[illegible]
[illegible]世の頼[illegible]
迄も[illegible]
なれ[illegible]富[illegible]
[illegible]是迄[illegible]
[illegible]月の[illegible]

[illegible]世よ[illegible]
[illegible]
[illegible]

わらせ給ひ旅中もろく心も富め詠歌よ
ぐさとうち案内する世のあとなる
いろと水繰ハ見とろう仲間ハ都へ
やうく社ゆりもち礼

松出

あたよ落葉と踏てあい体つくいい
ろハよは花鳥よもろうつく一時よ伸れ
紙まつ花名遊楽の擬造ハ月乃友に
流もく春乃山邊や秋の野恋苦楽
もちく出逢も咲えこう坂の友ろ坂や
一樹の陰乃宿りも絶せし縁とあ初を
一河乃流き泡て来る心清らめや奥
山乃深谷のもろ乃動れ水ぐもも級
ととるりまて流乃盃を干えちき
まる心ありのざれた盧山のいろへ古きつをさ
らぬ室乃戸玄其戒を祈りも志清ら
らぬ思ひの露乃動れ還遊を山道や
りやうれハ思ひいろへ
ちて道ある友人の移く猿善乃仏慶
家よ尊くもろき道とうやゆハ濁世の
人間とにつる紀我らもく心もうれろ
やきくを立人行葉乃世ハ皆えてさ
らハ我ひとり碍とさく百水皆幻楽せ
ハ花山乃橋を寝よ友法まち碍
ちく笑うるく遊ちん巧き乃
宮城四ろ花乃神マイ花ろやの雅

[illegible]

[illegible]

[illegible]

道は遠くもとと有しも浮くるぬ涙のうるを
ひとくさは長雨うくはるぬ初ふる思いらく
晴ぬ詠めと有しを濃乃雨や増り出んと
ふるに思ひよい世よるくもるらやこが
きまはたうれくく修よ弦るくぬるを
思ひ花は程りやこうしは家上経そうん皮ぬ弦
をやふくりやつ思ひるい歌乃絶ぬを
あり濃ぬよ宮ぬ濃毋の濃れ力を
頼ひりり濃まや本り我は濃毋の
るかいりくたるる世ぶきるもん
せと思ひらし歌ぬるるやと明
言るひわくひそ人皆ぬくりよ書

戸をるるりひくまはぬ
ふくよそぬたくるきくぬ
ゆくと思ひくりぬ
なるるるくくるなく
濃まやはるまやるるる乃 小濃の
色はかくくを
大意大悲のくるるぬ
きとくたわくるるひくをくす
あきるる日乃歌をくるぬくくとあふ
きるる言るる国にまるるき濃乃せけ
てたのくに頼くるぬの観音の慈悲
くぬ初際乃たくるる横川乃僧都よ見付
くるまくく小野よ友なしぬ行をかを持てを

のきれもて心摩乃世よ行くあほ
ひくらや橋川の板もゝ
らもきこえてゆいやう
ゆるつくしうちえと思ふ
に執心をきてく都辛よせくうきき
とうかと思ふ明方の橋川ごろと聞ハ
明方のあくれよ板のあくるやゆるくせを
板乃屋もや乃こゑ

上部ハ二ヘンテリ

玉葛

あるれ思ひの西葛ひ
四つ乃これまの月ど
と鄙乃住居乃うきのとゆも絶く有
なきあを板ちほくつる人四乃おくき
海風たちなくうなるとあれいまゆ
ゑ家をゆくと松浦乃唐土船をもるし
心乃叫ぶる我をゝ恋ぶうきゆ海と漕船くも
行方や行くとまりと白波ゆびくさの瀬
もきき思ふよさいる方もゆくて都の
中とても我い海くるゆ乃うちなをやう
きめを水鳥の海よまくるこゝくく
をつきもちらぬ乃程と思ふ鏡きて
ゆきるや世尼弟の大和路や唐土迄も
図ゆるるゑつきの書よ清てつく年
も思ぬいのるちうハ初瀬山尾上の鐘
乃よそうあちと思ふ絶ゆ古の人ゆこ度
ゝ中乃桜の立ゝ残寄ぬ限ハぶる川

の人と詠きるぞ逢瀬とは
思へる法の名ぞ玉葛まろしを
賜へ給へやうこそ世の物語けい
源もこそりはよこるめる乃気見や教
とも思ひそめよ初瀬川早くも海や浅
つるぬ縁よひろ思こそ
頼せそよ法の人吊の給へ見そうはが
ふ乃家は玉のうと名高もやふ
ふ乃 枕を玉葛の内作りよ
題目を唱るそやだらひ業因おろ
照さひろ山や日ろえりぐく天魔ろ悪
乃ちひある法乃燈あそうよおきを
いろや吊ろ世ぐ憑わくるりはう

きるてを葛めるかまちを寄ぬきぬ
ら世を変のくも法乃教へよ逢んの四ひ
ひるく一筋よ其ひまくるらてあろ乃みく
るく色はまろ山やぐもかこ辯つくもか
見我やこるく面教よ ろやあるる底
乃身は ろくとく執心の ろこ闇路
や思ひこの あぬやいつの祈乱まり尺
もまろれゆく思り地 ろ玉葛の宝
霧乃ぐく迷日もよやうりきぐ弱
瀬の山寒ぐく ぐろく露もるこも
和くあさのはれ月れ暑ぬうめや
ろうはくも世ぐ眠ろはくも世ぐも
思ひ思ひ明ろ乃転ひ罪や教

[illegible]

[illegible]

[illegible]

乃吹ちらくも葉瀑のうちと云ひたてる事さ
らみの秋の風きすてゞ風雅乃蔵
をも風上品蓮華王四と叩きてまことあれ
七寶荘厳まさ柱乃ひかふゆを梅の
えの白ひよりつる我四ゞ藤のうち寒よと紫
露乃其玉葛うきもくらゝ檀乃えり頼ま
きす　上巳　たのハ梅檀の濱よ風とり木
ゐもるきづらさ伝を栗屋の門まこめく
だのゝを栄くを浮あるよたとゝ所ゝ是
を蜻蛉乃ゐるゝ夢のうき橋をちち
渡りゞの来迎をねふゝ南京西方
極楽世界狂言綺語を十珍く荘厳
叩ほのうとだちを飾り

ちるゝて旦命を既よ終りぬ　エロシキル
まゝ人乃ゐ行い風ひとゐく鳥のゆんもの
ゐをを祈れ　廿二　光源氏の歌あとを弟ふ法
乃ちかうるく我もせきん蓮乃花のえんを
たのゝ　化　ゐをゐたたゐ枯乃ひりゝ
ゐを影もゐ　日　あさうほれ露いるつまれ法
ゐつまうゐくゐゐぬらゐ　九八
らくゐを葉ちるよ　下都り　迷ひ
石山乃観世音ゐりよ世よあらきゐく
引源氏物語見心見ゝ夢乃ちゝ
ちゝ市宮便をゐ方鶴きちちゐれゐ　九七
の寝殿ゐ　夢ゐあらゐの　九六
桜川

岸花紅ゝ水を照て洞樹緑ゝ風を含む

花園く錦を織るかとうたがふ洞水たゝくあ井のそ

面白や思ひ入家ゝのかきくれもかつ

き桜川の樹陰一河のかつれ[illegible]

ゝも所ゝあいよあひらい桜ゝ見み他せ

乃緑成へしゝ[illegible]ろや年をつく花の鏡と成

水を敷ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

[illegible]

瀧津波乃花を散りくるあらしや島やら
まつぶさを橋萬とぶあしもるつりや行きも白州
乃花も橋と富も波とみるうらぶるひのつ
めはるれ紅足いあくの花波は紅葉ある橋
あうこひしき袖さらくるあうちいき

[illegible]

うあるやいろ紅人のごとの紫ぶいみうるやか
若し菜紫の人かえん今迄は紅たいるあた
らぬひ乃菜紫人とのふい行乃れ為ふ而
袖ふ　行とうみらつもへきび親みれ琴り杯も
あ紅橋あう波をよ　橋みるこやくぷるる
夢とを見をるいつき袖みあらえん三多
乃日数ほとありてあきもをき親とるえん

[illegible]

とと乃海はかるれ　ちすり見あれ　たもた
てを　らくみ生ハ　ちらるあの　紅乃島ん
せれこはるあり　ちらと富　あ月を鳴ちう
蛾　き波あうきん　ひるくるるあひ立而へ
見ぐ　毋をもたらけ　橋りらく仏果れ縁と
ありまちり二世あ楽の　えん浮き親るの通
うあり乃ふきく

伯時

倩世間の幻想と親をるよ龍紅落紫の風
乃前まへぐあ乃恨意を広とう電光石火
出歌のうちみぱ紅乃去来をみる手始
て弱ふへきあいあるねをづくよ乃夢とま
とらう帳の親あ乃今をたよぐし果もせ

ぬ道芝の露のうきみの直所　沙弥
只南無阿弥陀仏道是もうき世のなかのいとや
悲願の波眼よりつきうせぬ雲間よ
うつ情是と果ぬるよ　二界よ流れくく
極人間の毒蛇の暗邪きぬ雲のその月乃え
ひきや明き紀真如平おれ臺上至人とた
ふも歎ぶして煩悩のうつるよ結ほぐ
ぬるう少き罪障乃山高く迷紀の海ふ
くいるよりてう迷生を沒へん史
宮歎きもも人百れ三四意三乃十れ
道おほかりき　山里
三界一心知り心即法界法心仏乃元生ぞ。
時ハ過ぎ三宮別行歎ぶ行ぞ己の

紀泥如来明心乃浮ぶ如へくを書ぬへくを
迷世の作泥の道ぶ人百なをなるかをぶら
世ぶ思ねくを歎頼む書ぶを方乃加紀ぶら
祈乃岸よ至ぶ人し祈楽ぶを極むるを教
あまをぶ世行道極ぶれ品ぶれや實れ
泥乃水ぶくを乃濁乃ぶ紀ぶの乃家
甚ぶと思ぶれ楽ぶを極め量ぶを命の仏成へ
しやぶ我成仏十方乃世界成へ　古顔語
紀ぶ泥ハ空の神ぶらねをぶき書のゆくを
ぶを雲のたるひくを西れ宮乃祈國よ近
へ行ぶを浮ぶの縁ぶを乃ぶを結ぶへ
し史稀名と鐘の音も曉りをく燈のぶき
ぶを南無帰命泥地

[illegible]

是社の神の祀りとて[illegible]神の
うと[illegible]の[illegible]場なる夢と計り思ふの
[illegible]行きて[illegible]やう[illegible]とは思へど
[illegible]深の[illegible]ものあるぬれもそめ
[illegible]の[illegible]紅人とい[illegible]袁へとい
[illegible]ばの原
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

百萬

千羊僅衡より[illegible]鳥雀枝の[illegible]
[illegible]世中はあ[illegible]波の[illegible]
[illegible]の[illegible]の[illegible]露の古郷
[illegible]月を送り[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

月落烏啼て霜天に満て冷しく江村の
漁火と愁の眠に対て枕に聞の響八
処にか聞て人を驚す

楓橋の夜泊　張継

月落て烏啼て霜天に満て冷しく江村の漁火と愁の眠に対て枕に聞の響八

親のの乃氣もちさるや滝や仏性の神の人
同世生よ世界を深へまハ尾の時う生記の
海と深う山を越う世界より生うき親
あハ三界世間かちとうきハ世よ花心別世
乃風の雨乃袖ちほきう増る春夜月を風
うも真くひのおう世よ深世羅科ハ明命
あ山や明言の時の敵乃うを思を此月
祇園うあ敵乃時とうつあう風世
久く老人よ思いく敵乃ハ乃 ろと見
きち君の命や動命れ花の時もうあう
思いく敵乃ハよ 世やうすや花海思
ぶるる敵もあ月の 雲龍図のうを
あ乃階 たまの床よ花の歩うもえよ

いく薄氷を踏うくあうきあやうき
世敵ぶてうあうや甚赤色乃心耳を深花色
ひくおうもれやあ乃結の色君も氣を思て
龍頭よ浮風を深へ給ふう石鞠き
備色天敵う月を流う呂水乃埋よ市幸
ひく月布天の敵とまへ 名所行呂律の
色をうぶく深ひを月てなき跡を花吊い
う有鞠うぶを初秋乃幸あれえ早三秋の
夏たを風一拜乃秋の空夕月の色心照
をひく水滝くうて波想ふう 二声コス
黒首鞠乃口弟ひやるう新を背きて天罰討
うて呂水よ流う月あう あれハ恋の世色も
若あ海よ流う浪ふ井ひく 哭のとりも

[illegible]

[illegible]

[illegible]

夢のまくらに神なくうつかゆめほろ
〜と神あらわれたまへり

富士を敷

其人は分を當社地給の樂人なれば明神よ
往古うへ仕奉の百姓きろと申志を
らぬ頼まれ申
宮城の里あきあとの高山蓬ようあき
夏月 蓬てよりのちうへきと思ひおいくをうこと
うら手をのれん百うら添てを見つき
和を内更以神あらぬ月をうへこうこ歌
くう歌ある歌くり高脇名る 蓬うらめ
しやあよ姫おれよ義れ歌の作うやいら
うたよ あれは太敷まく社人男の作りよ

作四礼まぢうあき事を作うやおう添ま
しも作 夕月 アレイ うまくれ人のいひやおてあれ
紙義の作せう事も太敷ばだ恨めしき
を太敷あり義の歌よいたうよ うるとは
まあり父こせよあれ事もたいこゆへぞあ
らは親の歌より詠く恨ふとまくへ
意うたあるは義の作きいたや祝うへうろ
ともよ 男の姿猫敷よあるあるや鳥甲
恨この作き討たさめ つうを苦よ うつま
むとく 後記 するや時の色ふて秋の月うは
しや うてやくと青つふと あふ祝ふの
るく意を 夏 陽 月 行 月 見は勝たらやじく
ぜうる姿よりうとく西言笑しあれぬ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]八洲吊ひの力なく　うゝ[illegible]
黄とりん寺に詣うやさん[illegible]
[illegible]
[illegible]

たつをとゝる想夫恋乃楽の敵うつ和歌
我門乃子角やる　男つハいろ〳〵つる
を行も物心そとゞ者は月をいり音楽ゝ
とゝハ相見よたゝつゝ有　満ゝあ者ゝ
面影さゝ山や弥ゝ山　合ゝ

唐船

序詞　時雨ゝゝてかゝるよまゝ
ゝとゞや纐をゝゝ　咲ゝもあれい名
と毎る中よゝまれ　武ゝゝ　たつきを
ゝゝ注所ゝゝ名ゝ名摂のう
頭めゝれ四つゝやゝたゝ親ゝゝを思ゝす
ゝ倫よかきゝ焼筆のきゝゝる乃鶴形つ
ゝゝ乃つゝゝも皆ゝねゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

我ゝゝゝのきたよあゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝねよ消ん命ハ行ゝゝゝゝゝゝゝゝ
ねゝハゝゝゝゝゝ紅ゝとのゝゝゝゝゝゝ
ゝゝほよあゝゝて十今ゝゝゝゝゝゝゝ
知ん唐ゝや日れ年のゝたゝハたゝゝ
つゝゝゝ見ゝとつゝゝゝと思ゝめハ紙ゝ心色
ゝハゝくゝとゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
あんするよ物の彩ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
あゝすゝ実ゝ毎乃漳あれゝゝゝゝゝゝゝ
するゝゝゝゝ帰國ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝきゝよ実よ波と思ゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝひゝや當社ハ情ゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝよ有ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

[illegible]の中ゝより　右筆乃[illegible]や　[illegible]より給ふ右筆やうく
しゝぐ世をと持ゝまあるゝ給ふ右筆やうく
[illegible]乃うまゝ乃ば時[illegible]とうつさ[illegible]
て唐人を船ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
楽をとゝゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ゝ浪乃敷[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
法ゝ八幡楽ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
乃袖のえれも[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
毋ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

耶鄭

四ゝ安全長久乃[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ

明れば月　月人男の舞られば雲の隠るるを
惜しみ給ふ　月の光ふかくもすみわたり
遠くまでもさやかなる日をみるにつけてもさく
ばかりなるかとおぼえて　書よりなほ
月のみやびやかなる　春の花きくの紅葉も色こ
そ　夏のとりもてはやす　宮の家々　月雪
の日の長くとりもてはやす　雪の朝
夕ぐれ　秋の夜の長きを　萬木千草も
一日の花さかりの面白やかなる時もあれば
時過ぎ枯れしぼむ　五十年の栄花もつきて
紅の夢の中なるまことは皆きくとうせ果て
ぬる邯鄲の枕のうちの夢はを
覚まさんかなしさ　五十の年月の栄花も忘れ
ぬ胡蝶の夢とぞ記あるべしさ

明れば月　月人男の舞られば雲の隠るるを
惜しみ給ふ　月の光ふかくもすみわたり
遠くまでもさやかなる日をみるにつけてもさく
ばかりなるかとおぼえて　書よりなほ
月のみやびやかなる　春の花きくの紅葉も色こ
そ　夏のとりもてはやす　宮の家々　月雪
の日の長くとりもてはやす　雪の朝
夕ぐれ　秋の夜の長きを　萬木千草も
一日の花さかりの面白やかなる時もあれば
時過ぎ枯れしぼむ　五十年の栄花もつきて
紅の夢の中なるまことは皆きくとうせ果て
ぬる邯鄲の枕のうちの夢はを
覚まさんかなしさ　五十の年月の栄花も
栄花も忘れぬ胡蝶の記あるべしさ

如何文衣の色とぞ　松
風の音とあり　宮殿楼閣は　邯鄲の
仮の宿　栄花のかりそめ　五十年　胡蝶の夢の
あひだ　栄花の一炊の間なり　人間の有為の業
やまとうりのつゆ　ちるはな　百年の歌舞も命　されば夢のうち
しばし　五十年の栄花　栄花の夢は是まで
あり　栄花の宴も歌の　あり　五十年
歌舞　是迄　栄花の宴　一炊の夢
の雲　知識は　邯鄲の夢の
世　栄花の夢　栄

三輪

中ごろ洪教僧ぶ人うやまうて神方まんぶ五
湯ぬ唐よまりりぎり四ハ元寿乃大和國
よ年久きま婦の者ありやちよてこの
面桂ぶらぬ色をたのこきぬよ乃出て
洪人ぶいられをひるみ人ぶ者よのむつこと
ぶ分いるる故ようぶく年月を返所乃
書をハ付とうハ面のよるるて直ひ給ハ
ぬえいとうん勿き事乃ぶ唱印くハ也
うあよ契りとこしへと布うハ彼人答
へるやうぶ乃ぶ為ハ神乃どうて本尊乃
きられんとよりぶハ面ふまつ琴もこと
ぶりりとと鶯よ語きばらるきのう
ありぶ世ぶ為ぶ乃をうんとうきこまきよハ
ぶ世ぶ為ぶくを醤よこれをとうきく踊をひく
てきるしゆくすく貢御の名ぶく乃を
ぬやもやぬ乃をぶ九よぶうるぬ乃為ぶうく
行程よ洪山本乃神頃やぶ移の乃枝よ面う
たりぶ乃ぶも洪ますやぶ契くく人の歌ぶ其名の
ふわを踊りくうう三輪乃踊のるくを語よ
つきく神ぶやうぶ乃ぶ右御き為相ぬ安つ
きても為の道ありぶも頼心ぶ乃ぶ迷神代の物
為ぶくいぶやあぶぶ彼人を感ん
多ぶ乃ぶ戸の其初ぶぶ神を出ぶ人とてハ百
葛ぶ神遊ひ是ぶ神楽の始ぶる千早
振神楽天乃岩戸を打ぶく神を踊ぶく

人間はこゝろの世とぞやりぬ　風とゝろつの
神達岩戸の前にて　祝詞を
らてまを給へ　「天照大神　長時よりこゝを
すてひらきたまひみやこ闇れ雲もれて日
月えり　やきは人のわりもくもろくとゝる
面白やと神の御聲　聞もすゝる始めの和語
野人は行路とゝ稽乃神　人間の御
事い面白ゝ行と岩倉やその開れ庶出
あけぬ　右翼　夢のつを出るやゝ弥
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

巻猶

されはたの山世にあるは見えそうれ第よ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

さんとゝ志ゐふよ島江とゝふ海と滿て岩山つきや
らもゐるゝふゆゑ富士帝の所下よ貨物といふ
士卒ありゝ者財貨秋庭上乃池のおとてを見
渡ゝふ折節秋の末ゝるよ寒き嵐ふちる柳
の一葉水よりひゝ浮ぶ鴨とゝの宝ゝも庭ゝを
ゝ落きるゝ其一葉のよゝ栄つゝ沈筆くゝ所ゝ
ゝ乃ゝ乃ゝゝゝ

うらぶうらぶわ風雲まうふかるうえ乃ふくろ
ふくろとゐあ時ハ ゞ ゝ ゝ ゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

ゆく　行ハ白川　行ハ白川の橋を渡てむら
ひろ　東岸　こるくハ　西岸　ちかあるこ
ろ　ちかき　こるくハ　つ浪里もく　極楽の
弥陀の宮殿の荘厳ハ　つんぱ　ハ　ぱ　ハ　ぱ　ハ　

月花たゞにうきぬ雲のなごりとてやぬ
ぬ
面白き花の都や筆よりくもゐ
ゆ
面白き花の都や筆よりくもゐ
ゆ
東都御園きよのうつくしき流れ音羽
乃あるに地主の桜ちらく面白き清水
柳の清水まつはるは水車のまもん
きの門なるし河柳をなびきやう
なきぬぬよりはかぬ
郡のうつ車よりゆく茶うん
きひさに白戸のぎはまとゞかれ
よこさりこの放歌よりゆくこのふ
たゞ乃行のすゝを宣てうたなりたる
時代うれ乃うた行とゝもつまとだく
いるよりぬきはまく思ふのうつうを

ハカヽリ カツコ 力工
ヨイヤア
面白の

より 此年月のうつるあまぎぬうつ通
き移りのまゝにうをうけうる
ひかりをうつ兄弟合力のうつ
ちまもよ親のつさをうつ事も孝行の
兄ゆ
此年月のうつ通
移りのまゝにうをうけうる
兄弟合力のうつ
ちまもよ親のつさをうつ事も孝行の
兄ゆ

山姥

一洞宮さ宮の色褪し郷ゆ山ひこの谷程音
きくたりとの郷ゆ山ものもの
ちどもうつ我ゆ山
家の色山たゝ海ゆく谷深
て水遠 前は海水ちゝくとて月
ちゝのうとのゝ後の屋根まくとて
此音楽の笛のを板ち出ん海行く

[illegible]

[illegible]

[illegible]

しき　山めぐる　樹の陰一河
の流れも他生の縁うかまくや我名を
月の浮世をめぐるひとふしも往還絶言語の
道ちくよ償仏家の因りの岳ぶり名残
おりやいと面白て山ぶり　春を惜よ名
ひと筋　花を寄ぬる山めぐり　秋の月
やきき新を見ぬく　月みるまと山めぐり
名ぶり行時風の雲ぶり　高ぶりひく
山めぐり　月ぶりくて物ぶを部屋高觀
の雲の塵つもりく山路とあるる完めり有
物見るやく空峯よかきり谷よ鶯音く
名近家よ名ぶよとと見ぶら山人山みやま
めぐり山めやまふ山見ぶて浮世もぶ浮世

當麻

其時息女中將姫此山よこもり給ひて
讃淨土經毎日讀誦し給ひ四月十五日
終のやうにねりくいたのみく其迎あり
給よ御まれにまをと一心不乱よ觀念し給
ちくに臨終命を朝くして此寺居ると
堅つく一向よ名佛三時の定より給ふ前ハ
山陰の松吹風も涼くて夏と忘れ
水の音も絶くよ心耳をすまくよもきく秋
名觀念の四月の上旬彼岸の寒のうち寒
出くとあるわ命よ人の老居ハ名残と共
ぶくすめりぶ是ぶりめる人やくぶ者ねぶ

終りよ若尼等く宣りく雖ども思
ものゝ人社祈りたまと行れる程よ中將姫
をあらはしつゝ神を維と呼こ為だつ
る山よ色こる事とそこ世行る仏の
唱へなくみ他りももるおとと尋へ仏世
り給ふ我名おれ色を考人よ祈り
世宣へ姫君も掛を洗顧成郷ら面の乃
法他の業こる新の時帝よと感激所よめ
いく終阿弥乃法神しまほるこりよみ
えふッこも貴き物弥郎みこの故へと
ぶふつきく右翁やヤこりも二月中の五日
みくもり時雨時帝御りけるに為今
洗寺よ祈りたと法事ゝくもよ祈るとぞ

こも祈るる法事ゝ
其いすへの紀尼代乃
ほと いひもつねハ
音楽ゝ音こ音楽乃音こ
聞ゝく御る山のこ上ゝ嶽とハ二上の尼とこ
人いへと神を洗尼りのほり山の社よ尼上
乃嶽とハ中ゝ若乃坊とのほりのほる雲
よ来くおりけり楽やこよ楽くあり雲
ひくる翁きけるれい宣て奇特とわちを
ともつねくみきやるく姫音聞こえ
しりの芸薩のまれわりあるは終
きにくく唱る夢中に於ゝ郷ハ
中將姫乃精魂なり。弥陀堂よ布一時祈願

[illegible]
浄土経朝〻時〻よとこてらす。信心徹骨髄明安楽乃御名畢乃気とゆり。本覚寺めの
因願よ唐もろこしおくまで。実を乃るるものをかゝ
して。法乃初穂の法味をゆり。[illegible]
虚空昇れ花嚴ハ照ハ雪踏よりやき。[illegible]
法物れ音聲ハ聽寶乃剣の耳よみゝ[illegible]。蕃
紙とある暁の心。紙よ浮ゝ。道よひろ[illegible]
光澤乃ゝ[illegible]。[illegible]
[illegible]
つま[illegible]。[illegible]
之法。是為基絶。[illegible]
信[illegible]。[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]。十重を一辯う有りゝや。[illegible]
[illegible]。[illegible]
[illegible]。[illegible]
[illegible]

宣ぬ人ぞ其の籠の萩花ハ林葉の秋を深み
つゝ晋乃七賢の楽と劉伯倫の酒ひ唯泉水よ
弱まり陰めやくあら薬と君のたゆよ林き人
曲水よ深ふ山ハ石ふさりてをりくとも
手に去とりて手もとらら列く月と深ふよ
やゐれく月をくまふよう山路の奥乃水まて
を行まの人の強ひ歌祖の菊れ水をくる
露の強ひ祖徳を愛ーよう七百歳をふ
幸も薬乃水よの和を　こゝや薬と菊乃
名ぞ甚強ひの露乃まよ　山年をふやあ
めいちの　ひらをー枝の菊木迫　花流宴
ひる狩り　平ゆくと言ふく　唯先数
露乃ゆくしあく　強山ゆく　花の父母

なる面嘉の義を奏りゆく紙水よ和れ衣の
祖ひちく結ふ手れ流さへ又ゆる山の井れぜ
も薬と思ふ　若乃流も若水とみる社
紙ひ言れ　いひしあれ　ゆ
天ゆえりのやまく瀧乃郷者を色ふく
音楽風く新ゆ　ぬ是唯ゆ　ゆく
右義や治まる世代のゆくひとく山河菊木
をゆふ五百乃風や十百乃おかまてく
日乃えゆ曽ゆハあくー曲水の菓乃泉ハ心
書ー言右義のき主ゆる　是とくも惜ひ
名風ー治乃水要をぬ御代を寿ゆる　神ハ
世年山祇の宮石　永ハ楊柳観音を薩
神ゆひ　仏ゆひ　唯先水波の隔まて　元世

舟度乃日傳の聲　幸の嵐や谷乃水音
うゝくゝ　柏ゐと榜つゝ音楽のひゝき　潮
津四とゝ南つゝ諸天頭いきよの勢向り
松浦乃ゐ世とうつきるみ　みくりる　ちといり
ゐよきい山の井乃水ゝくゝ　山の井乃　水渦こう
て涙怨くゝ乃あさまるゝ　代乃君々ゝ
ぢい水ゐ　ゐくゝ　ゐとゝ　ゐくゝて　ちをあふ
くゝ代とゝく　ゐくゝ　ゐくゝ　ゐくゝ　ゐくゝ
みひゝゐくゝ　ゐ水のつゝ　ゐ世　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ
津の水乃うきゝつ波の　ゐくゝも　ゐゝ代
ゐれもゝ　蔦蔵のみゝたゝ　ゐ世

海士

ゐくゝゐゝゐゝゐ

融

[illegible]
[illegible]
[illegible]

面影やおこうれの面影

加茂

石川やきんの小河のさゝ[illegible]

[illegible]

高瀬りゝぬ四とて行[illegible]日の面つき年の矣れ

[illegible]

水流れ[illegible]

[illegible]

きよ[illegible]の[illegible]川瀬の水上を[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

清瀧川乃水くまハ高根のこゆきとゝぬ[illegible]

紅日まちあく海ふよ　くまの青嵐乃瀧流ハ

う[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

我洲にもあるよ地をしめくゝ法界を縁の底を

たゞよゝるとゆ用ゝ人をうかゝすゝるわやの神徳あ

ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

嵐山

[illegible]

[illegible]の紅を我が門に音たかやかに山へる[illegible]

[illegible]の岩屋乃松風[illegible]寶相の花

[illegible]

[illegible]

[illegible]

乃[illegible]や畠[illegible]利物の[illegible]
我本元乃都をゆくゆく分段同語の歴[illegible]
[illegible]陸奥部の一見をひつけき　悪業悪
元甘の苦患をたゝきゝ　乃くみ屋[illegible]
あゝくゝ　忍苦海の煩悩をそゝひ　悪魔降
伏の正蓮のまゝ[illegible]に元明を敬つゝ[illegible]
[illegible]元甘を身れ[illegible]をあゝ[illegible]
て[illegible]権現同躰[illegible]
乃ゝ[illegible]ゝ乃海をみきゝ[illegible]
つゝ[illegible]ゝ[illegible]
千年[illegible]くの[illegible]

程々

湯場の[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

春栄

[illegible]十二因縁より二十五有の況憍[illegible]

[illegible]

煩悩業苦の[illegible]の縄より繋がれ来るの[illegible]

[illegible]

[illegible]の海より況んや仏法の母胎をや

[illegible]

[illegible]仏法東漸より有明の月の[illegible]

[illegible]

[illegible]

明神ゑ地大通智勝仏ゑ屋ゑめくる
て黄泉中有乃旅のそぢ長閑夏の色退き
紅ちる紫ゝ絵と浮くる初秋を中きる雲乃
みえの松くくに二度紅や咲ぬん　ゆきの
対夏寂と言白ゐれ家に作る童行乃右乃
栄殿よりぞて千秋万歳を祈度の盃乃
歌も四ゑや野白ゑ行夏の三瀧乃神風も吹ぬさ
ぬき仲の初め義久さ宮ゑ海底金月
と共浮ゑ出ゑ出ゑ行く出る盃れ夏
ゐれい言栄も初ゑ久ゑ親ゑ宮めさい
まゑ祝言れ秋万歳の舞れ神楽
千代ゑやちゑを出ゑれゑのいゑ四八万歳楽
マイ東遊のぢ波乃山ゑ松の栄乃
世の海ゑ舞

緑ゑれ波緑い　若木ゑ名緑　ゑや波行ゑ
親ゑれ陸ひ　みハ兄弟ゑ　是と云行きゑく
ゑつまゑ親ゑ兄弟と栄ゑ為ゑ見舞行と
栄り行ゑ宮ゑ波利せと伐ゑ親ゑ兄弟
ゑつまゑ　ぢつまてく鶴賀へゑと栄れ

春日竜神

波ゑ入唐渡と川ハ伝流布乃名と
御と寄んゑ天名山と絵しくい比叡山
ゑまつゑ宮堂ゑの中ゑ芳野桜ゑ
す　青ハ名鷲山ゑ名流せと度ゑんゑく大
明神と示現　世山ゑ宮所行ハ　即鷲のた
山ゑ名乃山と絵ゑ　新迎寺
屋仏ゑゑくぢゑ記月の学を照ととの

[illegible]神詠しあるたるうの[illegible]は物[illegible]百あるく悪
[illegible]萬の神德の迹しを思す故なるべしや小櫛
[illegible]元せの蓋のさと[illegible]思ひ給ふ御妻[illegible]稚縵の衣
[illegible]あさ産幣の[illegible]和歌と思つゝ四歌の山法と弘
[illegible]終千鹿野寺も実なるべしや言白智に紀伊名
鹿の蘭のしるやう 吉野南社の右横の山名
三宝之法[illegible]
[illegible]日好[illegible]宮殿[illegible]
四方寺月[illegible]くえう増る七方寺[illegible]法の
[illegible]宮橘の部[illegible]春日賀[illegible]社のと
[illegible]月 [illegible]絵き[illegible]部先[illegible]神
[illegible]と思ひ宝[illegible]地度の八度[illegible]思ひ[illegible]
[illegible]仏[illegible]八[illegible]唐渡天[illegible]

まり[illegible]之乃山より五天竺[illegible]摩那の
誕生加那の城道[illegible]鷲峯れ説法 [illegible]林の八
滅迹[illegible]
[illegible]百綿四千の神の生 [illegible]時に[illegible]
[illegible]
なるべく[illegible]
[illegible]
[illegible]時より大地震動[illegible]界
乃龍神の[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]王まく持法華那[illegible]楽乾闥婆王
[illegible]楽音乾闥婆[illegible]楽和河修羅[illegible]候何
[illegible]恒河の春屬引つまくゝ[illegible]も同都
[illegible]りゝ　龍ゝ[illegible]立ますふ波瀾の袖ゝ白暁か
[illegible]や和田の[illegible]れはは白き立ハみくりの[illegible]色
[illegible]とうるうる原や波ゆくつゝ月のうゝ[illegible]乃
[illegible]波の川つくゝ[illegible]ひ山ま[illegible]ハ　八大龍王ハ大
[illegible]波ハやつの冠と叫ふき所ハ[illegible]日[illegible]の風[illegible]
[illegible]乃雲よの[illegible]ほ[illegible]の[illegible]の節[illegible]もいてくゝ[illegible]
摩耶の誕生[illegible]の[illegible]の後[illegible]の[illegible]の[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]是迦[illegible]りや明恵上人佐八唐[illegible]
[illegible]ゝ　渡天[illegible]ハ[illegible]ゝ　佐仏[illegible]ハ
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ

寛政六歳甲寅六月